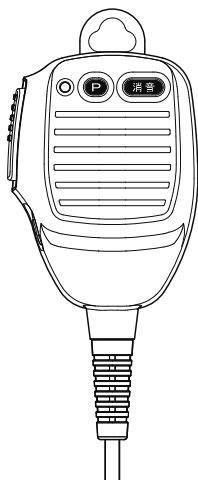


STR *STANDARD HORIZON*

車載型デジタル簡易無線機

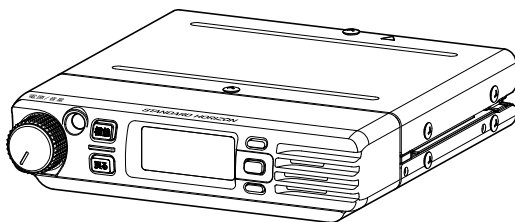
FTM320R  Bluetooth®

取扱説明書



Digital
【 資格不要 】

デジタル82チャンネル
3R 3T 登録局



お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

この無線機は国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目次

構成品	1
オプション	1
はじめに	2
正しくご使用いただくために	3
防塵・防水性能について	3
電波干渉について	3
通信方式に関して	4
デジタル簡易無線局について	4
チャンネル構成とコールチャンネル	4
安全上のご注意 ～必ずお読みください～	5
購入後に初めて電源を入れた時 (Bluetooth® の設定)	6
基本的な使いかた	8
主なキーの説明	8
P1 キー / P2 キーの機能を変更する	9
P1 キーと P2 キーに設定できる機能	10
便利な機能を使う	12
マルチチャンネル待受機能	12
P1 キーにマルチチャンネル待受機能が設定されている場合	12
マルチチャンネル待受を中止する時	12
CUE (キュー) 機能	14
P2 キーに CUE 機能が設定されている場合 (工場出荷時)	14
Bluetooth® ヘッドセットでハンズフリー運用をする	15
PA (拡声器) 機能	17
セカンダリ PTT スイッチに PA 機能が設定されている場合	17
リモート PA (拡声器) 機能	18
他の FTM320R の外部スピーカーから音声を出す	18
各部の名前と機能	19
フロントパネル	19
フルドットディスプレイ	21
マイクロホン	22
リアパネル	23
準備	24
電源の接続	24
車載用ブラケットの使いかた	24
アンテナの接続	24
通信方式について	25
UC (ユーザーコード) 通信	26
UC (ユーザーコード) 通信の設定方法	27
個別通信	28
個別通信の準備	29
個別通信の呼び出し方法の設定	30
呼び出しを受けた時	32

通信時に動作する機能について	33
通話中の「ビビビ」音（連続送信時間制限）.....	33
ヒートプロテクション（高温時の保護機能）.....	33
便利な機能を使う	34
音声自動送信（VOX）機能.....	34
セミ VOX 機能.....	35
ミュート（消音）機能.....	35
セカンダリ PTT 機能.....	35
PTT ホールド機能.....	36
ARTS 機能（個別通信のみ）.....	36
UC ベル機能（UC 通信のみ）.....	37
個別ベル / グループベル（個別通信のみ）.....	37
簡易設定	38
個別通信の簡易設定（個別通信時のみ）.....	48
拡張機能	52
機能拡張メニューの基本的な操作方法.....	52
セットメニュー	53
コールメニュー	65
故障かな？と思う前に.....	70
定格.....	71
索引.....	72

構成品

◎ 無線機本体 (FTM320R)	1
◎ マイクロホン (SSM-77E、無線機本体に取り付けられています)	1
◎ 無線機取付金具 (取付ネジ一式を含む)	1
◎ マイクハンガー (取付ネジ一式を含む)	1
◎ DC 電源ケーブル	1
◎ 予備ヒューズ (5A)	2
◎ USB ケーブル	1
◎ 取扱説明書 (本書)	1
◎ 無線局登録申請書	1
◎ 無線局登録申請の手引き.....	1
◎ 保証書	1

オプション

◎ Bluetooth ヘッドセット	SSM-BT10
◎ GPS アンテナ.....	SCU-38
◎ 高音質外部スピーカー	MLS-200
◎ マグネット取付金具 (外部スピーカー MLS-200 用).....	SMB-203
◎ 直流安定化電源 (スピーカー内蔵).....	SAS-01A
◎ スピーカー付きマイクロホン (マイクコード長 約 5 m)	SSM-80
◎ スピーカー付きマイクロホン (マイクコード長 約 10 m)	SSM-81

はじめに

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。本機をご使用になる前には必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

◎ご利用にあたって

- ・ 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB 規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易無線機（種別コード「3R 3TJ」）との互換性を確保しています。ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。
- ・ 本体底面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- ・ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- ・ 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。

◎免責事項

- ・ 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
- ・ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

◎アフターサービス

- ・ 正常なご使用状態で万一故障した場合は、当社営業部にご相談ください。

八重洲無線株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-26-3 大森ベルポート D-3F
TEL : 03-6404-6525

正しくご使用いただくために

- ◎本機に接続する外部機器類は、必ず当社純正オプションを使用してください。
当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。
当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- ◎マイクロホンのコードを強く引き伸ばしたままにしないでください。
コードの断線などにより、故障の原因になります。
- ◎直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- ◎電波法により、無線機やマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。
- ◎周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- ◎通話する際は、マイクから約5センチ離して普通の声量で話してください。
マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。

防塵・防水性能について

本機および付属のマイクロホン（SSM-77E）は、IEC 国際規格 IP54 相当（防塵等級 5^{*1}、防水等級 4^{*2}）の防塵、防まつ性能を有しています。この性能を永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ◎キーやボタンのラバー、各端子（マイク端子、外部スピーカー端子、USB 端子、アクセサリ端子）のラバーキャップなどに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- ◎埃などで無線機の安全性を損なわないように保護されていますが、埃などがスピーカーやマイク部分の表面に蓄積した場合、音量が小さくなったり、音質が悪くなったりすることがありますので定期的に確認、清掃することをお勧めします。
- ◎海水や砂、泥などが付いた時は、ケースが損傷していないことを確認した上で、すぐに乾いたやわらかい布で拭き取ってください。汚れがひどい時は、水を含ませたやわらかい布をかたく絞って拭いてください。
- ◎本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ◎本機は、水中での使用はできません。
- ※1：動作に影響を及ぼす以上の粉じんが内部に侵入しない。
- ※2：いかなる方向からの水の飛沫によっても有害な影響を受けない。

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル（例：“CH01”と“CH02”）などでご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

通信方式に関して

- ◎ 本機は、デジタル簡易無線機（登録局）として認証を取得しています。無線機の登録及び開設申請をすることをご利用いただけます。
- ◎ 本機は、ARIB 規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機（種別コード「3R 3T」）との通話互換性を確保しています。
※ ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。

デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線局の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R 3T	351MHz	82	陸上及び 日本周辺海域
登録局 (上空利用)	3S 3U		15	陸上及びその上空、 日本周辺海域

本機は種別コード「3R 3T」の「登録局」として開発されたもので、スカイスポーツなど、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成（ARIB無線設備の種別コード「3R 3T」）

- ◎ チャンネル構成（通話チャンネル）
“CH01”～“CH82”の82チャンネルが利用可能です。
- ◎ コールチャンネル“呼出CH15（351.28750MHz）”は「コールチャンネル」に設定されています。
コールチャンネルでは、ユーザーコード（26ページ参照）は自動的に“000”に設定され、秘話通信機能は自動的に解除されますので、ARIB規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。

注意

コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

補足

コールチャンネルでは、ユーザーコードおよび秘話通信の設定をすることができません。

- ◎ 上空用チャンネルモニター（受信専用）
セットメニューの「F26 上空チャンネル」を“モニター”に設定すると、上空用チャンネルの15チャンネル（CHS1～CHS15）を受信することができます（62ページ参照）。

安全上のご注意 ～必ずお読みください～

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

-  **危険** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
-  **警告** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
-  **注意** 誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 行ってはならない禁止事項です（例  分解禁止）。

 必ず守っていただきたい注意事項です。

危険

-  自動車を運転しながら通話や操作をしない
事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。
運転者が使用する時には、車を安全な場所に止めてからご使用ください。
-  航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”での設置および運用をしない
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。
-  引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所ではない
発火事故や落下事故などの原因になります。
-  DC 電源コードを挟んだり、押し潰すことがないよう設置する
火災・発熱・発火・断線などの原因になります。
-  通電中に無線機のフロント部分以外に触らない
本体は回路保護のために放熱しますので、通電中に無線機のフロント部分以外に触ると、やけどなどの原因になります。

警告

-  分解や改造をしない
本機は電波法に基づく無線局で使用する通信機器です。
分解や改造は違法ですのでおやめください。
ケガなどの事故や故障の原因になります。
-  本機は、“IP54 相当”の防塵・防まつ構造になっておりますが、もし濡れた場合にはそのまま放置せず乾いた布などで拭いてください。
性能や寿命を低下させる原因になります。
-  自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使わない
本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。
-  指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。

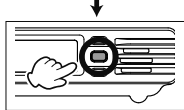
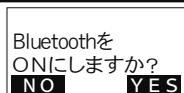
注意

-  指定以外のオプションを使用しない
ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。
-  強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。
-  磁気カードなどを無線機やマイクに近づけない
キャッシュカードなどの内容が消去されることがあります。
-  本機を直射日光の当たる場所（ダッシュボード）や熱器具（ヒーター）の近くに設置しない
変形や変色などの原因になります。
-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色などの原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
-  ゴム製品、プラスチック製品を無線機本体に触れたまま放置しない
無線機は回路保護のために放熱しますので、ゴムやプラスチックが変形や変色する原因になります。
-  マイクのコードを強く引き伸ばしたままにしない
コードの変形や断線などにより、故障の原因になります。

購入後に初めて電源を入れた時 (Bluetooth® の設定)

購入後に初めて電源を入れた時は Bluetooth® の設定画面が表示されますので、Bluetooth® を使う方も使わない方も、はじめに下記の手順で設定してください。

Bluetooth® ヘッドセットを使う場合

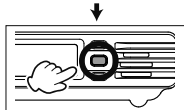


[P1] キーを押します。

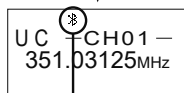
接続する Bluetooth ヘッドセットをペアリング (接続) モードにします。操作方法は、ご使用になるヘッドセットの取扱説明書をご覧ください。



接続したいヘッドセットを [UP] または [DOWN] キーで選択してください。



[P1] キーを押します。



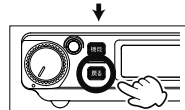
無線機とヘッドセットが接続されると点灯します。

- 次回からは、この Bluetooth 設定画面は表示されません。無線機とヘッドセットの電源を入れるだけで、自動で接続されます。
- 送信する時は話を始めると自動で送信状態になります。話を止めると受信に戻ります。

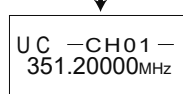
●Bluetooth® ヘッドセットを使うのをやめる

1. [戻る] キーを押しながら、電源を入れます。
2. “Bluetooth を ON にしますか?” の画面が表示されますので、[戻る] (NO) キーを押します。

Bluetooth® ヘッドセットを使わない場合



[戻る] キーを押します。



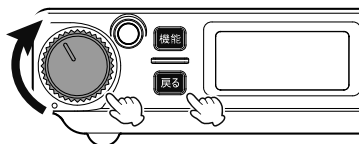
- Bluetooth® ヘッドセットを使わないで通話することができます。
- 次回からは、この Bluetooth 設定画面は表示されません。

●Bluetooth® ヘッドセットを 使えるようにする

1. [戻る] キーを押しながら、電源を入れます。
2. “Bluetooth を ON にしますか?” の画面が表示されますので、左記の “Bluetooth ヘッドセットを使う場合” 操作を行います。

●接続するヘッドセットを変更したい場合

1. 無線機の電源を切ります。
2. [戻る] キーを押しながら、電源を入れます。



3. “Bluetooth を ON にしますか?” の画面が表示されますので、左ページの“Bluetooth ヘッドセットを使う場合”の操作を行って、新たに接続したいヘッドセットと接続します。

- ・ Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節することができます。調節方法は“Bluetooth のマイク感度を調節する” (46 ページ) を参照してください。
- ・ Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を減らすことができます。設定方法は“Bluetooth のセーブ機能を設定する” (46 ページ) を参照してください。

●音声自動送信 (VOX) 機能

話ただけで自動的に送信状態になり、話を終えると自動的に受信状態に戻るハンズフリー通話ができる“音声自動送信 (VOX) 機能”をオン / オフできます (工場出荷時はオン)。

1. ヘッドセット SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを短押しします (ブッと電子音が鳴ります)。通話したいときは、無線機のマイクロホンを使用してください。

マルチファンクションボタンを押す

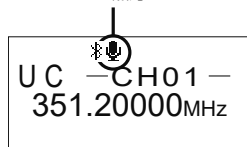


2. もう一度マルチファンクションボタンを短押しすると (ブブッと電子音が鳴ります)、再び音声で送信と受信を切り替えられるようになります。

もう一度押す

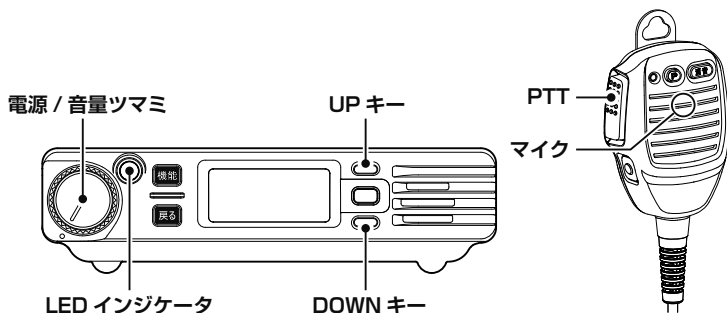


音声自動送信 (VOX) 機能がオンになると点灯します。

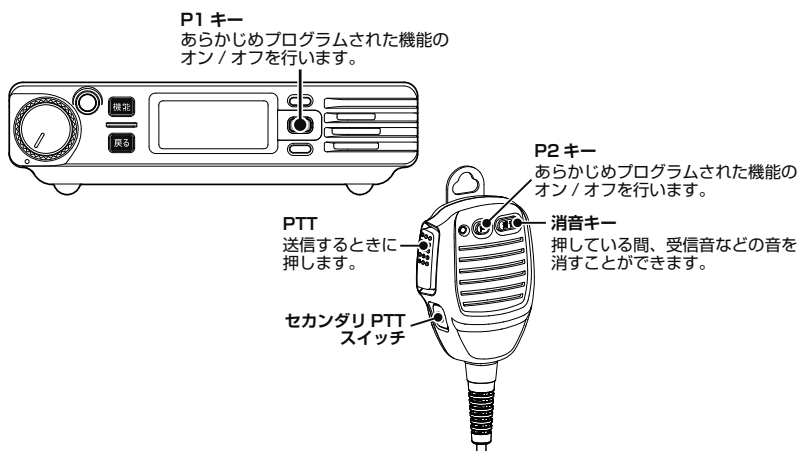


基本的な使いかた

1. 電源 / 音量ツマミを右にまわして電源を入れて、聞きやすい音量に調節します。
購入後に初めて電源を入れた時は、Bluetooth® の設定画面が表示されますので、6 ページの「購入後に初めて電源を入れた時 (Bluetooth® の設定)」を参照して設定をします。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、周波数 (チャンネル) をあわせます。
信号を受信すると LED インジケータが点滅し (19 ページ参照)、電波の強さに応じてディスプレイに “ ~ ” と S メーターが点灯します。
3. PTT を押しながら、マイクに向かって話します。
送信中は LED インジケータが “赤色” に点灯します。
4. 電源を切るには、電源 / 音量ツマミをカチッというまで左にまわします。

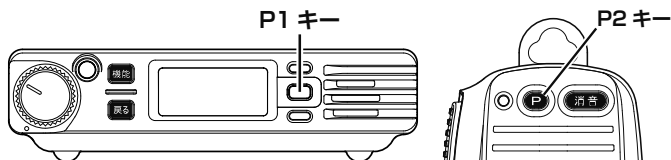


主なキーの説明

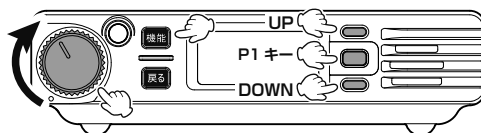


P1 キー / P2 キーの機能を変更する

よく使う機能を無線機パネル面の“P1 キー”またはマイクロホンの“P2 キー”の“短押し”、“長押し”操作のそれぞれに設定することができます。



1. [機能] キーを押しながら電源を入れ、[P1] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“短押し”または“長押し”、どちらの機能を変更するかを下記から選択します。



P1 キーの登録を変更する場合

短押しで動作する機能を変更する場合 → F29 P1 キー短 を選択

長押しで動作する機能を変更する場合 → F30 P1 キー長 を選択

P2 キーの登録を変更する場合

短押しで動作する機能を変更する場合 → F31 P2 キー短 を選択

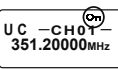
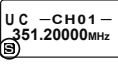
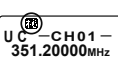
長押しで動作する機能を変更する場合 → F32 P2 キー長 を選択

工場出荷時は、下記の機能が設定されています。

メニュー項目	工場出荷時設定
F29 P1 キー短 (短押し)	バックライト
F30 P1 キー長 (長押し)	スピーカー切替
F31 P2 キー短 (短押し)	CUE 機能 (長押しすると動作します)
F31 P2 キー長 (長押し)	設定されていません ※短く2回続けて押すと CUE を受信してもアラームが鳴らなくなります。

3. [UP] または [DOWN] キーを押して設定する機能 (次ページ参照) を選び、[P1] キーを押すと設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

P1 キーと P2 キーに設定できる機能

機能	動作
キーロック	各キーを押しても動作しないようにするロック機能をオン / オフします。ロックを解除するときは、キーを長押しします。 ロック中は、画面に「  」が点灯します。 
バックライト	ディスプレイやキーのバックライトが 消灯 → 暗い → 標準 → 明るい → …と切り替わります。
待受受信	短押しして、マルチチャンネル待受機能の動作をオン / オフします。長押しすると、現在のチャンネルを待受受信「対象」 / 「対象外」にします。
待受受信 CH 設定	待受の対象チャンネルは、画面に「  」が点灯します。 
送信出力	送信出力が 5W (表示無し) → 2.5W (「M」表示) → 1W (「L」表示) → …と切り替わります。
ミュート	一時的に音が出ないようにするミュート (消音) 機能をオン / オフします。 ミュート機能がオンのときは、画面に「ミュート中」が点灯し、チャンネル表示が点滅します。 
音声自動送信 (VOX)	音声で自動的に送信状態になる、音声自動送信 (VOX) 機能をオン / オフします。 音声自動送信 (VOX) 機能がオンのときは、画面に「  」が点灯します。 
セカンダリ PTT	受信時に押している間、セカンダリ CH に設定したチャンネルで送信します。PA (拡声器) 機能動作時は、押しながら話すときと外部スピーカーから音声を出力します。
緊急	緊急事態をアラーム音で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して知らせます。 注意: 「F29 P1 キー短」と「F31 P2 キー短」だけに設定できます。
録音	相手局の音声を録音することができます。
再生	キーを押すと、受信時自動録音機能で録音された件数が表示されます。キーを押した後に [UP] または [DOWN] キーで再生したい録音を選んでキーを押すと再生します。録音内容は電源を切ると消去されます。
モニター	キーを押している間は、UC コードが異なる信号の音声も聞くことができます。 注意: 「F29 P1 キー短」と「F31 P2 キー短」だけに設定できます。
秘話	32,767 通りの秘話コードが一致する無線機同士だけが通話できる秘話機能をオン / オフします。 秘話コードを「00000」以外に設定した状態で、秘話機能がオンのときは、画面に「  」が点灯します。 — 秘話コード (ID) の変更方法 — 注意: 他の秘話コードに変更すると通話ができません。 [機能] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで「秘話コード」を選ぶ → [P1] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで秘話コードを選んで [P1] キーを押す → 5 桁のコードを入力したら [戻る] キーを押すと設定完了です。 

機 能	動 作
クイックアンサー	音声を発して応答できない時などに、あらかじめ録音してある「後で応答します」などのメッセージを送信します。 — メッセージの録音のしかた — [機能] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで“クイックアンサー”を選ぶ → [P1] キーを2回押す → PTT を押さずにマイクに向かって話す → [P1] キーを押すと録音が完了します
音声案内	チャンネルを変更した時と [P1] キーを押した時に、現在のチャンネル番号を音声で読み上げます。 音声案内を行う際は、あらかじめセットメニュー「F14 CH ガイダンス」の設定を“OFF”以外に設定してください (59 ページ参照)。
ワンタッチ VOL	音量ツマミをまわさずに、あらかじめ設定した音量にできます。 ワンタッチ VOL がオンのときは、画面に“音量固定中”が点灯します。 UC -CH01- 351.20000MHz [音量固定中]
リスト1 待受受信	マルチチャンネル待受受信の対象チャンネルが登録された“リスト1”または“リスト2”を選択します。
リスト2 待受受信	
ライト禁止	ディスプレイ、キーの照明および、LED インジケータの点灯をオン / オフします。
拡声器 (PA)	電波の送信は行わず、マイクロホンの音声を外部スピーカーから出力する拡声器機能をオン / オフします。
スピーカー切替	音を出すスピーカーが“フロントスピーカー” → “マイクスピーカー” → “フロント+マイクスピーカー”と切り替わります。 外部スピーカーを接続した時は、“フロント+外部スピーカー” → “マイク+外部” → “全て”と切り替わります。
CUE	緊急連絡や重要な用件を通知する CUE (キュー) 機能が動作し、受信側のアラーム、LED のフラッシュ、“CUE 受信”の表示で緊急の通知を行います。 注意: 「F29 P1 キー短」または「F31 P2 キー短」に設定した場合でも、CUE 機能を動作させるときは長押ししてください。
宛先切替	個別通信において、宛先を“一斉” → “グループ” → “個別”と切り替えます。
Up/Down 切替	チャンネルを切り替える [UP]/[DOWN] キーの動作を、一時的に ID 切替動作にします。
無効	機能なし

便利な機能を使う

マルチチャンネル待受機能

グループで異なったチャンネルを使用している状態で、チャンネルを切り替えることなくグループ間の通話を簡単に行うことができます。

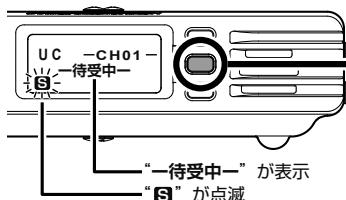
P1 キーにマルチチャンネル待受機能が設定されている場合

1. [P1] キーを短押しすると、登録されている全てのチャンネルで信号の待受受信を始めます。

[P1] キーでのマルチチャンネル待受機能の動作や [P1] キーの色はプログラミングソフトウェア “YCE48B” で設定することができます。

補足

プログラミングソフトウェア “YCE48B” は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (<https://connect.yaesu.com>)。



P1 キーを押す

マルチチャンネル待ち受け中は
プログラミングソフトウェア
“YCE48B” で設定した色で
点灯します。

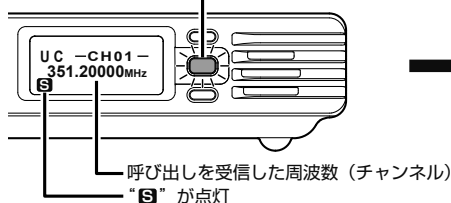
2. 信号を受信した時は、受信したチャンネルで待受が止まり相手の話を聞くことができます。その後 [P1] キーが点滅している間にマイクロホンの PTT を押すと送信することができます。

受信中は点滅します。

受信が終ると 5 秒間点滅して点灯に変わります。

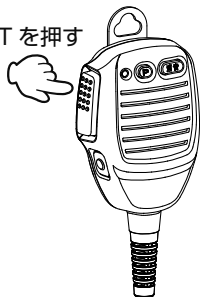
点滅中に PTT を押すと、設定に関係なく受信した
チャンネルで送信します。

PTT を押す



呼び出しを受信した周波数 (チャンネル)

「S」が点灯



[P1] キーの点滅が点灯に変わると再びマルチチャンネル待受動作を開始します。

マルチチャンネル待受を中止する時

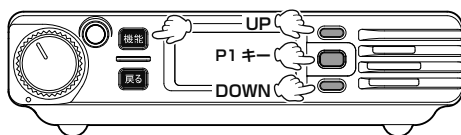
待受機能が動作中に [P1] キーを押します。

マルチチャンネル待受動作を中止します。

マルチチャンネル待受機能の動作に関して

1. マルチチャンネル待受を中止した時にどのチャンネルに移動するかは、プログラミングソフトウェア“YCE48B”で以下から設定できます。
 - ・待受受信中に、最後に通話した時のチャンネル
 - ・待受受信を開始した時のチャンネルそれ以外のチャンネルで通信を行うときは、[UP]または[DOWN]キーでチャンネルを選びます。
2. その受信が終るまで他のチャンネルの信号を待受しません。
3. 待受機能動作中に PTT を押して送信するチャンネルは、プログラミングソフトウェア“YCE48B”で以下から設定できます。
 - ・待受受信を開始した時のチャンネル
 - ・最後に通話した時のチャンネル
 - ・“指定チャンネル 1”または“指定チャンネル 2”に登録してあるチャンネル

待受チャンネルの追加と解除ができます



1. [機能]キーを押します。
2. [UP]または[DOWN]キーを押して「待受受信 CH」を選択します。
3. [P1]キーを押します。
4. [UP]または[DOWN]キーを押して登録(解除)したいチャンネルを選択します。
5. CH01～CH82の任意のチャンネルまたは、全チャンネルを選択できます。
6. [P1]キーを押し、[UP]または[DOWN]キーを押して“ON(登録)”または“OFF(解除)”を選びます。
7. [P1]キーを押すと、設定が確定されます。
8. 手順4～7を繰り返して、登録する全てのチャンネルの設定を“ON”にします。
9. [戻る]キーを2回押すと、周波数(チャンネル)表示に戻ります。

待受対象チャンネルは、画面左下に“S”が表示されます。
[UP]または[DOWN]キーでチャンネルを切り替えて、待受チャンネルの全てに“S”の表示があるかを確認してください。

UC -CH01-
351.20000MHz
S

Bluetooth® ヘッドセットでハンズフリー運用をする

オプションの Bluetooth® ヘッドセット “SSM-BT10” を使用するとハンズフリー通信が可能です。音声で自動的に送信と受信を切り替えて通話する “音声自動送信 (VOX) 機能” にも対応しています。

Bluetooth® ヘッドセットを使用したハンズフリー通信を行っているときでも、無線機のマイクロホンを使用して通話することができます。

Bluetooth® ヘッドセットを使用した通話方法は、以下の方法があります。

1. 音声自動送信 (VOX) 機能

話を始めると自動で送信状態になり、話をしている間は送信状態のままです。
話を止めると自動で受信状態に戻ります。

● Bluetooth® ヘッドセット使用時に話をしても送信しないようにする (一時的に音声自動送信 (VOX) 機能をオン / オフする)

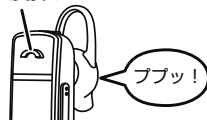
車内で同乗者と話をする時など、話をしても無線機が送信しないようにしたい時は、ヘッドセット SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを短押しします (ブツと電子音が鳴ります)。通話したいときは、無線機のマイクロホンを使用してください。もう一度マルチファンクションボタンを短押しすると (ブブツと電子音が鳴ります)、再び音声で送信と受信を切り替えられるようになります。

マルチファンクションボタンを押す



声で送信しなくなります

もう一度押す



声で送信できます

声で自動的に送信できるときは、画面に “” が点灯します。

 UC-CH01-
351.20000MHz

2. Bluetooth® ヘッドセット “SSM-BT10” のキーで送受信を切り替える

SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを短く押すと送信状態になり、もう一度短く押すと受信状態になります。

音声自動送信 (VOX) 機能を使わないときは、以下の設定が必要です。

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “音声自動送信 (VOX)” を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して “OFF” を選んで [P1] キーを押します。
4. [戻る] キーを押します。

これで、SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを押して、送信と受信を切り替えることができます。

Bluetooth® ヘッドセット使用時の音声をスピーカーからも出す

Bluetooth® ヘッドセットで受信した音声を、ヘッドセットと同時に無線機のスピーカーやマイクロホンのスピーカーからも出すことができます。

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “Bluetooth” を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して “スピーカー出力” を選んで [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して “許可” を選んで [P1] キーを押します。
5. [戻る] キーを 2 回押すと周波数（チャンネル）表示に戻ります。

現在、無線機に設定されているスピーカーからも音声が出るようになります。

音を出すスピーカーは、[P1] または [P2] キーに登録した “スピーカー切替” 機能で以下から設定できます。

- ・ 無線機のスピーカー
- ・ マイクロホンのスピーカー
- ・ 無線機とマイクロホンのスピーカー

PA (拡声器) 機能

オプションの外部スピーカー“MLS-200”を接続して拡声器として使用することができます。オプションのマグネット取付金具“SMB-203”で外部スピーカーを車両の外側にワンタッチで取り付けて、周囲への緊急連絡や避難誘導に使うことができます。

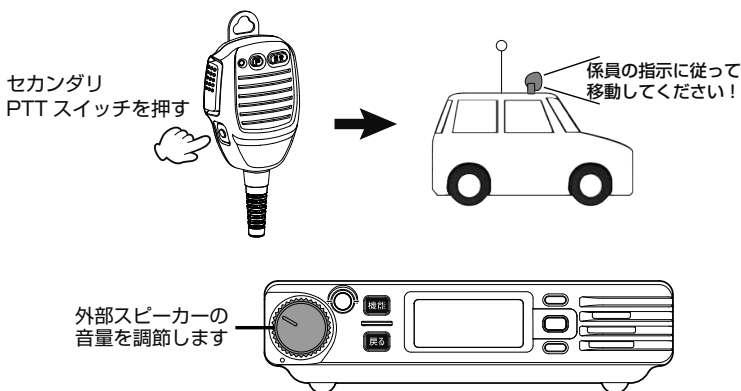
落下などの危険がありますので、マグネット取付金具で外部スピーカーを車両に取り付けたまま運転しないでください。

補足

設定はあらかじめプログラミングソフトウェア“YCE48B”でプログラミングします。YCE48Bは当社ウェブサイトからダウンロードすることができます(<https://connect.yaesu.com>)。

セカンダリ PTT スイッチに PA 機能が設定されている場合

セカンダリ PTT スイッチを押しながらマイクに向かって話すと、外部スピーカーから音声が出力されます。



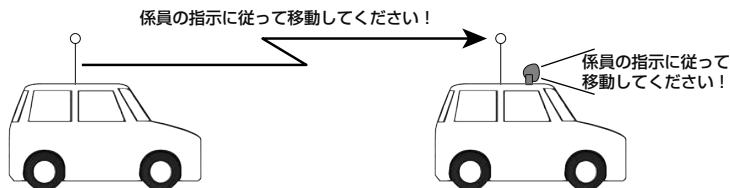
リモート PA (拡声器) 機能

他の FTM320R の外部スピーカーから音声を出す

離れた場所にある他の FTM320R の PA 機能を動作させて、緊急連絡や避難誘導を行います。

補足

この機能を使用するには、送信側受信側共にあらかじめプログラミングソフトウェア“YCE48B”でプログラミングします。YCE48B は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (<https://connect.yaesu.com>)。



送信する側の設定

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“リモート PA”を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON”を選んで [P1] キーを押します。
4. [戻る] キーを押すと周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。
リモート PA がオンのときは、画面に“リモート PA”が点灯します。
5. マイクロホンのセカンダリ PTT スイッチを押すと送信状態になり、他の無線機の外部スピーカーから音声が出ます。

UC -CH01-
351.20000MHz
[リモート PA]

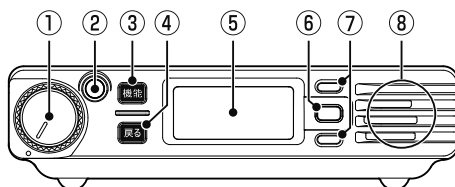
受信する側の設定

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“リモート PA 受信”を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON”を選んで [P1] キーを押します。
4. [戻る] キーを押すと周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。
5. リモート PA の信号を受信すると、外部スピーカーから自動的に受信した音声が出ます。

マルチチャンネル待受機能が動作中にリモート PA の信号を受信すると、待受動作は一時的に停止し、外部スピーカーから受信した音声が出ます。リモート PA の信号が無くなると、再びマルチチャンネル待受動作を開始します。

各部の名前と機能

フロントパネル



① 電源 / 音量ツマミ

右にまわして電源を入れて、聞きやすい音量に調節します。
電源を切る時は、カチッというまで左にまわします

② LED インジケータ

信号受信時や送信時に点灯または点滅します。

LED の点灯色・状態	通信状態
緑色・点滅	UC（ユーザーコード）通信受信（中）（秘話通信を除く）
赤色・点灯	送信中（秘話通信を除く）
黄色・点滅	個別通信受信（中）（秘話通信を除く）
黄色・点灯	個別通信（通話タイマー中）
水色・点滅	秘話通信受信（中）
青色・点灯	秘話通信送信（中）

③ 機能キー

- ◎ 無線機の各種設定が行えます。個別通信の時は、長押しすると個別通信に関する各種設定が行えます（48ページ参照）。
- ◎ 押しながら電源を入れると“拡張機能”画面になります（52ページ参照）。

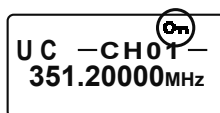
④ 戻るキー

- ◎ 各種設定を行っている時に、1つ前の画面に戻ります。
- ◎ 長押しすると、無線機本体とマイクロホンのキーをロックする“ロック機能”がオン/オフします。ディスプレイに“**On**”が点灯します。ロック中にキーを押した時は“ロック中”と表示します。

補足

セットメニューの「F06 キーロック」（56ページ参照）で、PTTもロックするように変更することができます。

ロックを解除するには、もう一度[戻る]キーを長押しします。
ディスプレイの“**On**”が消えます。



⑤ フルドットディスプレイ（21 ページ参照）

使用しているチャンネルなどの情報を表示します。
詳しくは21ページの「フルドットディスプレイ」をご覧ください。

⑥ P1 キー（9 ページ参照）

よく使う機能を登録しておく、ワンタッチでアクセスできます。
セットメニュー“F29 P1キー短”および“F30 P1キー長”で機能を変更できます。工場出荷時は、以下の機能が登録されています。

短押し：画面やキーのバックライトが下記のように切り替わります。

…→ “明るい” → “消灯” → “暗い” → “標準” → …

長押し：音を出すスピーカーが下記のように切り替わります。

…→ “フロントスピーカー” → “マイクスピーカー” → “フロント+マイクスピーカー” → …

外部スピーカーを接続しているときは、下記のように切り替わります。

…→ “フロント+外部スピーカー” → “マイク+外部スピーカー” → “全て” → …

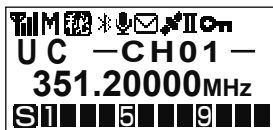
⑦ UP/DOWNキー

- ◎ チャンネルを選択します。
- ◎ 各種設定を行っている時は、設定項目や設定値を選択します。

⑧ スピーカー

マイクロホンのスピーカーやリアパネルに接続した外部スピーカーからも音を出すことができます（11ページ参照）。

フルドットディスプレイ



- ← アイコン表示部
- ← チャンネル表示部
- ← 周波数表示部
- ← S メーター

	受信時： 受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。 送信時： 送信出力を下記の3段階で表示します。 : High (5W 出力) / : Mid (2.5W 出力) / : Low (1W 出力)
	送信出力を表示します。 (表示なし)： High (5W 出力) M : Mid (2.5W 出力) L : Low (1W 出力)
	秘話通信機能がオンの時に表示します。
	Bluetooth® 機能がオン (接続中) の時に表示します。
	VOX 機能がオンの時に表示します。
	メッセージ送信中 / 受信中に表示します。
	GPS 機能がオンの時に、GPS 衛星を測位すると表示します。未測位時は点滅します。
	セカンダリ PTT スイッチの操作が有効な時に表示します。
	キーや PTT などがロックされている時に表示します。
	マルチチャンネル待受機能の対象チャンネルを選択している時に表示します。マルチチャンネル待受機能が動作中は点滅します。
	個別通信の個別呼出に設定している時に表示します。
	個別通信のグループ呼出に設定している時に表示します。
	個別通信の一斉呼出に設定している時に表示します。
	S メーター (受信信号の強さを 12 段階で表示)

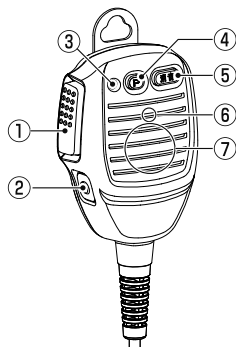
マイクロホン

① PTT

押すと送信します。放すと受信状態になります。

補足

- ・送信中はLEDインジケータが赤色で点灯します。
- ・送信出力は“5W”、“2.5W”、“1W”に切り替えることができます（21 ページ参照）。
- ・連続送信時間は5分未満と決められています。本機では送信を開始してから約4分45秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まります（33 ページ参照）。



② セカンダリPTTスイッチ

- ◎ 押している間、セカンダリCHに設定したチャンネルで送信します。
- ◎ PA（拡声器）機能が登録されている場合は、押している間は外部スピーカーから音声が出力されます

③ LEDインジケータ

信号受信時や送信時に点灯または点滅します。

LED の点灯色・状態	通信状態
緑色・点滅	受信
赤色・点灯	送信
黄色・点灯	個別通信（通話タイマー中）
黄色・点滅	個別通信受信（秘話通信を除く）

④ P2キー（P）（9ページ参照）

よく使う機能を登録しておく、ワンタッチでアクセスできます。

セットメニュー“F31 P2キー短”および“F31 P2キー長”で機能を変更できます。工場出荷時は、以下の機能が登録されています。

長押し：CUE機能

相手の無線機のアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行います。

短押し：CUEミュート

短く2回続けて押すと、CUEを受信したときのアラームをオン/オフできます。

⑤ 消音キー

受信音やピープ音をミュート（消音）することができます。

⑥ マイク

マイクと口元の間隔は5cm位が適当で、普通の大きさの声で話します。

⑦ スピーカー

リアパネル

① 外部スピーカー端子*

3.5φモノラルミニジャックです。オプションの外部スピーカー“MLS-200”を接続します。接続した後はテープを巻くなどして必ず絶縁してください。外部スピーカー接続時は防塵防まつ性能（IP54相当）は保たれません。

② DC電源コード

付属のヒューズ付DC電源ケーブルを使って12V/24Vのバッテリーまたは、直流安定化電源に接続します。

③ イグニッション端子（黄色）

自動車のACC（アクセサリ）ラインに連動して、本機の電源を自動でオン/オフできます。自動車のキーやエンジンスイッチがACCの位置で12Vまたは24Vになり、OFFの位置で0Vになるラインに接続します。

補足

- ・②のDC電源コードも12V/24Vのバッテリーまたは、直流安定化電源に接続してください。
- ・この機能を使用するには、あらかじめプログラミングソフトウェア“YCE48B”での設定が必要です。YCE48Bは当社ウェブサイトからダウンロードすることができます（<https://connect.yaesu.com>）。

④ MIC端子

付属のマイクロホンSSM-77Eが取り付けられています。

⑤ USB端子*

付属のUSBケーブルでパソコンと接続して無線機の設定を行う端子です。

補足

無線機の設定はプログラミングソフトウェア“YCE48B”で行います。YCE48Bは当社ウェブサイトからダウンロードすることができます（<https://connect.yaesu.com>）。

⑥ アクセサリー端子（ACC）*

専用ケーブルで外部機器と接続します。

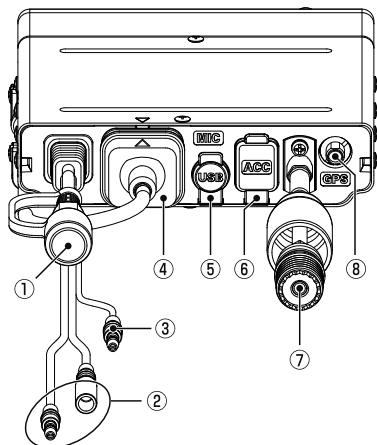
⑦ アンテナコネクター

同軸ケーブルでアンテナを接続します（M型コネクター）。

⑧ GPS端子

オプションの外部GPSアンテナ（SCU-38）を接続します。

※これらの端子を使用しない時は、埃や水分などが入らないようにラバーキャップをしっかりと取り付けてください。



電源の接続

● 車載で使用する場合

- 車のボディにバッテリーのマイナス（－）電極が接続してある“マイナス接地”の車でご使用ください。
- 必ず付属のヒューズ付き電源コードを使用し、12V または 24V のバッテリーのプラス（＋）側端子に電源コードの“赤線”を、マイナス（－）側端子に電源コードの“黒線”を接続してください。
- 電源を接続した後は必ず、コネクタ部分に絶縁カバーを被せてください。

● 固定局として使用する場合

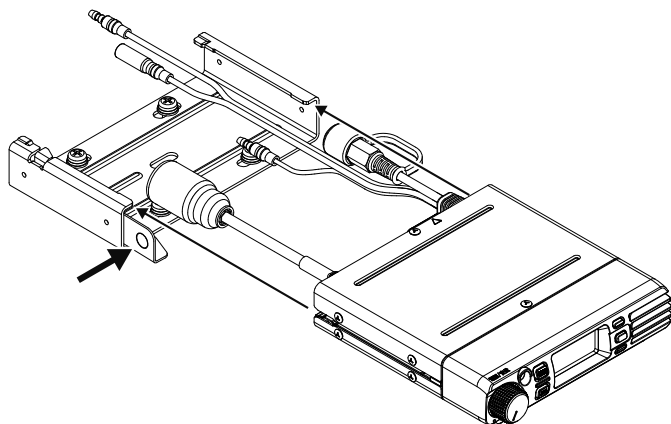
固定局として使用する場合は、オプションの直流安定化電源“SAS-01”をご使用ください。

車載用ブラケットの使いかた

下図を参考にして、無線機側面の両側にあるスリットを車載用ブラケットに、「カチッ」と音がしてロックがかかるまで確実に差し込んでください。

無線機を車載用ブラケットから外す場合は、車載用ブラケットの矢印で示すレバーを押しながら、無線機本体を引き抜きます。

- 車載用ブラケットは、付属のブラケット取り付けビス（4本）でしっかり取り付けてください。
- 車載用ブラケットは、無線機の下上どちら側にも取り付けことができます。



アンテナの接続

簡易無線用のアンテナを同軸ケーブルでアンテナコネクタ（M 型コネクタ）に接続してください。

- アンテナを接続した後は必ず、コネクタ部分にカバーを被せてください。

通信方式について

本機は「UC(ユーザーコード)通信」と「個別通信」の二通りの通信方式に対応しています。工場出荷時設定は UC 通信に設定されています。

通信方式は、以下の手順で切り換えることができます。

1. [機能] キーを押しながら電源を入れます。
2. [DOWN] キーを押して「コールメニュー」を選択し、[P1] キーを押します。
3. 「CO1 通信方式 (D)」が表示されますので [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して通信方式を選択します。

UC 通信 (初期値)	同じチャンネルで同じユーザーコードを設定している局同士が通話できる通信方式
個別通信	同じチャンネルで同じユーザーコードを設定している局の中から、特定の相手局やグループだけを呼び出して通話できる通信方式

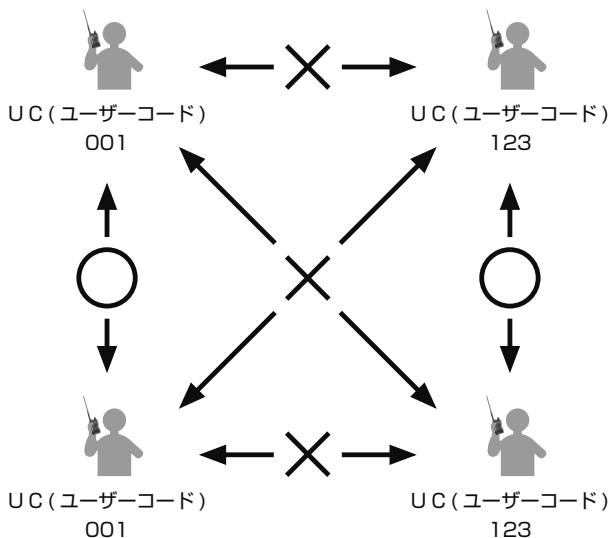
5. [P1] キーを押します。
6. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

UC (ユーザーコード) 通信

UC 通信は同じチャンネルにあわせている局で、かつ同じ UC (ユーザーコード) を設定している局同士だけが通話することができる通信方式です。

UC 通信方式は、ARIB 規格で規定されており、種別コード「3R 3T」の他社製デジタル簡易無線無線機と通話互換があります。

ユーザーコード通信のイメージ



ユーザーコードは数字3桁で、“000”～“511”の中から設定することができます。

補足

- ・ユーザーコード“000”は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか通信することができません。
- ・本機の UC (ユーザーコード) は、工場出荷時は“000”に設定されています。
- ・他ユーザーとの混信を避けるため、UC (ユーザーコード) を“000”以外に設定することをお勧めします。

UC（ユーザーコード）通信の設定方法

UC（ユーザーコード）通信に使用するユーザーコードを“000”～“511”の中から設定します。ユーザーコードが異なる局とは通話することができませんので、必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください。

補足

ディスプレイ左上に“個別”、“グループ”、“一斉”のいずれかが表示されている場合は、コールメニュー「C01 通信方式（D）」で“UC 通信”に設定してください（66 ページ参照）。

1. 相手局と同じ周波数（チャンネル）にあわせます。
2. [機能]キーを押すと、現在のユーザーコードが表示されますので、通話するすべての局で同じになっていることを確認します。



ユーザーコードの変更が必要ない場合は、以下の3～6の操作は不要です。

3. [P1]キーを押します。
ユーザーコードの一番左の桁を設定できるようになります。
4. [UP]または[DOWN]キーを押して数字を選択します。
5. [P1]キーを押すと、設定できる桁が右に移動します。
手順4と5を繰り返して3桁のユーザーコードを入力します。



6. 3桁目を設定して[P1]キーを押すと、設定が保存されます。
7. [戻る]キーを押します。
以上で UC 通信の設定は終了です。

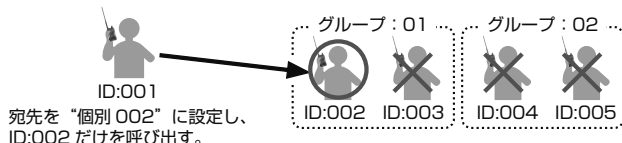
PTTを押すと、同じチャンネルで同じ UC（ユーザーコード）に設定した局と通話できます。

個別通信

個別通信では特定の相手だけ呼び出すことや特定のグループに属する全員を呼び出す、また全ての局を一齐に呼び出して通話をすることができます。さらに、グループ親機に設定した局は全てのグループからの呼出を受けることができ、また、特定のグループを選択して呼び出すことができます。

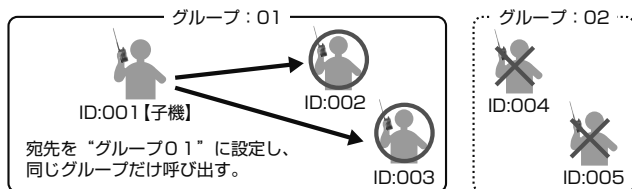
個別通信のイメージ

◎ 特定の相手だけ呼び出す（個別呼出）

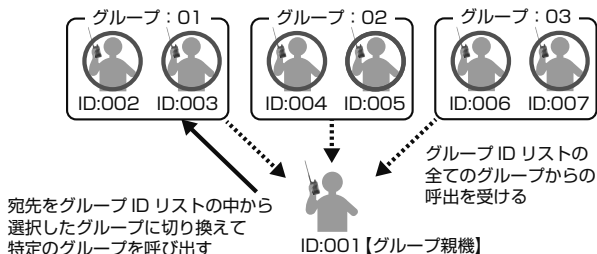


◎ 特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）

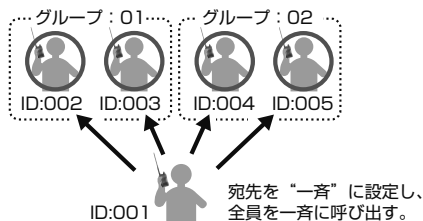
【グループ子機に設定した場合】



【グループ親機に設定した場合】



◎ 全員を一齐に呼び出す（一齐呼出）



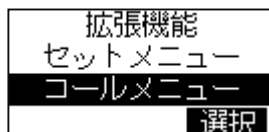
個別通信の準備

補足

ディスプレイ左上に“個別”“グループ”“一斉”のいずれかが表示されていない場合は、コールメニュー「C01 通信方式(D)」で“個別通信”に設定してください(66ページ参照)。

自局 ID の変更が終わっている場合は、以下の 1～5 の操作は不要です。

1. [機能] キーを押しながら電源を入れます。
2. [DOWN] キーを押して「コールメニュー」を選び、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して「C04 自局 ID(D)」を選び、[P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して希望する ID (個別 001～個別 200) を選択し、[P1] キーを押すと設定が保存されます。
5. 一度電源を切り、再び電源を入れます。
6. 相手局と同じ周波数(チャンネル)にあわせます。
7. [機能] キーを押すと、現在のユーザーコードが表示されますので、通話するすべての局で同じになっていることを確認します。



ユーザーコードの変更が必要ない場合は、以下の 8～11 の操作は不要です。

8. [P1] キーを押します。
ユーザーコードの一番左の桁を設定できるようになります。
9. [UP] または [DOWN] キーを押して数字を選択します。
10. [P1] キーを押すと、設定できる桁が右に移動します。
手順 9 と 10 を繰り返して 3 桁のユーザーコードを入力します。



11. 3 桁目を設定して [P1] キーを押すと、設定が保存されます。
12. [戻る] キーを押します。

以上でユーザーコードの設定は終了です。

補足

- ・本機の UC (ユーザーコード) は、工場出荷時設定では“000”です。
- ・他のユーザーとの混信を避けるため、UC (ユーザーコード) を“000”以外に設定することをお勧めします。

以上で個別通信の準備は完了です。

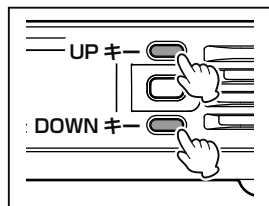
個別通信の呼出方法(“個別呼出”、“グループ呼出”、“一斉呼出”)の設定については、次ページ以降を参照してください。

個別通信の呼び出し方法の設定

特定の相手呼び出す（個別呼出）

呼び出したい特定の相手局の個別 ID を設定して、個別に呼び出します。

1. [機能] キーを長押しします。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“宛先ID”を選択して、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して呼び出したい相手局の“個別ID（個別XXX）”を選択します。



補足

コールメニュー「C04 自局ID(D)」で設定されている、自局IDと同じID番号を設定することはできません。

4. [P1] キーを押すと、個別IDが確定されます。
5. [戻る] キーを押すと、周波数（チャンネル）表示に戻り、選択した個別IDの相手局と通話できます。

補足

- ・相手からの応答がなく、応答待ち時間（5 秒間）が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。
- ・応答するタイミングは、応答待ち時間（5 秒間）以内に行ってください。
- ・個別通信方式では、お互いに通話が終わった時から応答待ち時間のタイマーがスタートします。

特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）

同じグループ内に属する全員を呼び出します。グループ呼出には、下記の二つの設定があります（工場出荷時の設定は“グループ子機”）。

グループ子機：自グループからの呼び出しを受け、自グループの呼び出しができます。

グループ親機：グループIDリストに登録したすべてのグループIDからの呼び出しを受け、選択した特定のグループの呼び出しができます。

補足

“グループ親機”への変更は、プログラミングソフトウェア“YCE48B”での設定が必要です。YCE48Bは当社ウェブサイトからダウンロードすることができます（<https://connect.yaesu.com>）。

グループ子機に設定した場合の自グループの設定

1. [機能] キーを押しながら電源を入れます。
2. [DOWN] キーを押して「コールメニュー」を選び、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して「C05 グループID(D)」を選び、[P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して希望する“グループID”を選択し、[P1] キーを押すと設定が保存されます。
5. 電源を切ります。



以上でグループIDの設定は終了です。自グループを呼び出して通話できます。

グループ親機に設定した場合のグループ呼び出し設定

1. [機能] キーを長押しします。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“宛先ID”を選択して、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して呼び出したい“グループID (グループ XX)”を選択します。
4. [P1] キーを押すと確定されます。
5. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。
PTT を押して、選択したグループを呼び出して通話できます。



補足 同時に複数のグループを呼び出すことはできません。

グループ着信割り込み設定について

本機が“グループ親機”に設定されている時に、「グループ着信割り込み」が“許可”に設定されている場合は、あるグループとの通話中（通話保持時間（約 5 秒間））であっても、他のグループからの呼び出しを受ける（割り込み）ことができます。

割り込みを受けると自局のグループ呼出の宛先は、呼び出してきたグループのIDに自動で切り替わりますので、PTT を押すだけでそのグループと通話することができます。

呼び出してきたグループとの通話が終了すると、自動的に最後に選択していたグループIDに戻ります。

全員を一斉に呼び出す（一斉呼出）

グループに関係なく全員を一斉（ALL）に呼び出します。

1. [機能] キーを長押しします。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“宛先ID”を選択して、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して“一斉”を選択します。
4. [P1] キーを押すと確定されます。
5. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。
PTT を押して、一斉呼び出しをして相手局と通話できます。



補足

- ・相手からの応答がなく、応答待ち時間（5 秒間）が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。
- ・応答するタイミングは、応答待ち時間（5 秒間）以内に行ってください。
- ・個別通信方式では、お互いに通話が終わった時から応答待ち時間のタイマーがスタートします。

呼び出しを受けた時

個別通信で呼び出しを受けると、相手局の ID と呼び出し方法（個別、グループ、一斉）が表示されます。

- 個別呼び出しを受けた時にすぐに応答することができなかった場合“不在着信状態”となって、相手局の ID（名前）が点滅します。
- 不在着信状態をキャンセルする場合は、[戻る] キーを押してください。

個別呼び出しを受けた時

ディスプレイに呼び出してきた相手局の個別 ID が表示されます。受信中は LED インジケータが黄色（秘話通信時は水色）に点滅します。
すぐに応答できなかった場合は、相手局の ID（名前）が点滅します。

応答する場合は、そのまま PTT を押すと相手呼び出します。



グループ呼び出しを受けた時

ディスプレイに呼び出してきたグループ ID が表示されます。受信中は LED インジケータが黄色（秘話通信時は水色）に点滅します。



応答する場合は、そのまま PTT を押すとそのグループを呼び出します。

一斉呼び出しを受けた時

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“一斉”が表示されます。受信中は LED インジケータが黄色（秘話通信時は水色）に点滅します。
応答する場合は、そのまま PTT を押すと一斉呼び出しをします。



通信時に動作する機能について

通話中の「ピピピ」音（連続送信時間制限）

本機の連続送信時間は5分未満と決められています。そのため、送信を開始してから約4分45秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に自動的に送信が止まります。そのままPTTを押し続けて送信開始から5分間経過すると、その後1分間は送信禁止状態になります。

アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

ヒートプロテクション（高温時の保護機能）

無線機が高温になっている場合にPTTを押すと、ディスプレイに“HEAT”と表示され、自動的に送信出力が低下します。

さらに高温になった場合にPTTを押すと、ディスプレイに“HEAT”と表示され、LEDインジケータが消灯し、警告音を発し続け送信することができません。無線機の温度が下がってから送信してください。

便利な機能を使う

音声自動送信 (VOX) 機能

PTTを押さずに、音声により自動で送信状態にすることができます。マイクに向かって話すと送信し、話すのを止めると受信状態に戻ります。

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“音声自動送信 (VOX)”を選び、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して下記から設定を選択して、[P1] キーを押すと設定が確定されます。



OFF: 音声自動送信 (VOX) 機能がオフになります。

ハンドマイク: 無線機のマイクロホンからの音声で自動で送信します。

外部マイク: 無線機に取り付けた外部マイクロホンからの音声で自動で送信します。

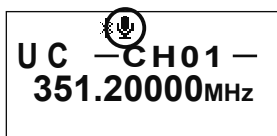
Bluetooth: 無線機に接続したオプションの Bluetooth® ヘッドセットからの音声で自動で送信します (工場出荷時設定)。

補足

“ハンドマイク”の設定になっている場合に、本機に Bluetooth® ヘッドセットが接続されると、自動で Bluetooth® の音声自動送信 (VOX) 機能が有効になります。この時、設定値は“Bluetooth”と表示されます。

必要に応じて、以下の手順で音声自動送信 (VOX) の感度を設定します。

4. [UP] または [DOWN] キーを押して“VOX 感度”を選び、[P1] キーを押します。
5. [UP] または [DOWN] キーを押して VOX 感度を“レベル 01” (感度低) ~ “レベル 15” (感度高) から選択して、[P1] キーを押すと設定が確定されます。(工場出荷時の設定は“レベル 08”)
6. [戻る] キーを押すと周波数 (チャンネル) 表示に戻り、ディスプレイ上部に“📡”が表示され、音声自動送信 (VOX) が“オン”になります。



補足

音声自動送信 (VOX) 機能が“オン”で送信状態の時に、音声自動送信 (VOX) 機能に設定したプログラムキーを押すと、たとえ周囲の騒音などがあっても、必ず待受状態に戻ります。

セミ VOX 機能

音声自動送信 (VOX) 機能がオンの時に、周囲の騒音などで不用意に送信しないようにすることができます。セミ VOX 機能をオンにすると、音声により自動で送信状態にはならず、PTT を押すと送信状態になり、話をしている間は PTT を放しても送信を続け、話を止めると自動で待受状態に戻ります。

補足

この機能を使用するにはあらかじめプログラミングソフトウェア“YCE48B”でプログラミングします。YCE48B は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (<https://connect.yaesu.com>)。

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“セミ VOX”を選び、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON”または“OFF”を選択して、[P1] キーを押すと設定が確定されます。



4. [戻る] キーを押すと周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

補足

- ・音声自動送信 (VOX) 機能が“ON”の時にだけ設定できます。
- ・セミ VOX 機能が“ON”で送信状態の時に、もう一度 PTT を押すと、たとえ周囲の騒音などがあっても、必ず待受状態に戻ります。
- ・Bluetooth® ヘッドセット“SSM-BT10”では動作しません。

ミュート (消音) 機能

マイクの [消音] キーを押すか、またはミュート機能を設定したプログラムキーを押すと、受信音やビーブ音をミュート (消音) することができます。

セカンダリ PTT 機能

マイクロホンのセカンダリ PTT スイッチを押すと、あらかじめセカンダリ PTT 送信チャンネルに設定したチャンネル (工場出荷時設定は待受受信を開始したチャンネル) で送信することができます。

補足

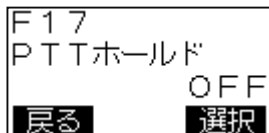
[P1] キーまたは [P2] キーにセカンダリ PTT 機能を設定することができます。セットメニューの「F29 P1 キー短」または「F31 P2 キー短」に設定できます (9 ページ参照)。

1. マイクロホンのセカンダリ PTT スイッチまたは“セカンダリ PTT”機能に設定したプログラムキーを押している間、セットメニュー「F 24 待受受信 PTT」(62 ページ参照) で設定したチャンネルに切り替わり送信します。
セカンダリ PTT 機能が有効な時は、ディスプレイに“Ⅱ”アイコンが表示されます。

PTT ホールド機能

PTT およびセカンダリ PTT スイッチを一度押すと、放しても送信状態を継続し、もう一度押すと受信状態に戻るようにすることができます。

1. [機能] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して「F17 PTT ホールド」を選び、[P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON”を選び、[P1] キーを押すと設定が確定されます。(工場出荷時設定は“OFF”)
5. 電源を切って再び電源を入れると周波数(チャンネル)表示に戻ります。



ARTS 機能 (個別通信のみ)

定期的に発信される他の局からの情報を受信し、交信圏内圏外の表示を行います。

補足

この機能を使用するにはあらかじめプログラミングソフトウェア“YCE48B”でプログラミングします。YCE48B は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (<https://connect.yaesu.com>)。

ARTS 機能の動作が許可されたチャンネルに合わせると、自動で ARTS 機能が動作し、相手局からの ARTS 信号を受信すると画面に“ログイン”が表示されます。約 2 分間相手局からの ARTS 信号を受信できない場合(交信圏外の場合)は、画面に“ログアウト”が表示されます。

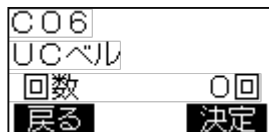
現在ログインされている局を確認することができます。

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“ARTS”を選び、[P1] キーを押します。
3. 現在ログインされている局数が表示されます。
4. [P1] キーを押すと、ログインされている曲のリストが表示されます。
5. [戻る] キーを 2 回押すと周波数(チャンネル)表示に戻ります。

UC ベル機能 (UC 通信のみ)

UC 通信時に UC (ユーザーコード) が一致する相手局からの呼び出しを受けた場合に、ビープ音 (1 ~ 3 回) を鳴らして知らせる機能です。

1. [機能] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「コールメニュー」を選び、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して「C05 UC ベル」を選び、[P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して“0 回” ~ “3 回”を選び、[P1] キーを押します。(工場出荷時設定は“0 回”)
5. [UP] または [DOWN] キーを押して、ビープ音タイプ“A” ~ “M”を選び、[P1] キーを押すと設定が確定されます。(工場出荷時設定は“A”)
6. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。



個別ベル / グループベル (個別通信のみ)

個別通信時に個別 ID またはグループ ID が一致する相手局からの呼び出しを受信した時にビープ音 (1 ~ 3 回) を鳴らすことができます。

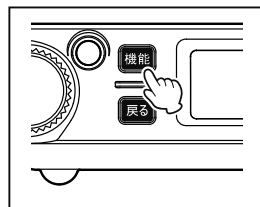
1. [機能] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「コールメニュー」を選び、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して「C06 個別ベル」または「C07 グループベル」を選び、[P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して“0 回” ~ “3 回”を選び、[P1] キーを押します。(工場出荷時設定は“1 回”(個別ベル)、“0 回”(グループベル))
5. [UP] または [DOWN] キーを押して、ビープ音タイプ“A” ~ “M”を選び、[P1] キーを押すと設定が確定されます。(工場出荷時設定は“M”(個別ベル)、“A”(グループベル))
6. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。



簡易設定

周波数（チャンネル）表示中に[機能]キーを押すと設定画面が表示され、音声自動送信（VOX）、Bluetooth®などの設定ができます。

無線機の設定や選択している通信チャンネルなどによって、一部の項目が表示されない場合があります。



項 目	設定値 (初期値：太字)	機 能	ページ
ユーザーコード	000 ～511	UC（ユーザーコード）通信に使用するユーザーコードを“000”～“511”の中から設定します。	40
リモート PA ^{*1}	OFF /ON	リモート PA 機能をオン / オフします。	40
リモート PA 受信 ^{*2}	受信しない / 受信する	“受信する”にすると、他の無線機からリモート PA で送られた音声を外部スピーカーで出力します。	41
ライト禁止	許可 / 禁止	ディスプレイとキーの照明および LED インジケータの点灯をオン / オフします。	41
秘話	OFF /ON	秘話機能をオン / オフします。	41
秘話コード 《秘話機能“ON”時のみ》	00001 ～ 32767	秘話コードを設定します。	41
再生	—	自動で録音されている相手局の音声を再生します。	41
録音メモ	—	録音した相手局の音声を再生します。	42
クイックアンサー	—	送信する音声メッセージを録音 / 再生 / 消去します。	42
待受受信	OFF /ON	チャンネルを切り替えることなく通話を簡単に行うことができるマルチチャンネル待受機能をオン / オフします。	43
待受受信 CH	—	待受受信“対象” / “対象外”のチャンネルを設定します。 待受の対象チャンネルは、画面に「S」が点灯します。	43

項 目	設定値 (初期値：太字)	機 能	ページ
待受受信指定 CH 1	CH01 ～ CH82 未設定	マルチチャンネル待受受信中に、PTT を押したときに送信するチャンネルを設定します。セットメニューの「F24 待受受信 PTT」の指定 CH 1 / 指定 CH2 のチャンネルを設定します。	44
待受受信指定 CH 2	CH01 ～ CH82 未設定		
2nd PTT 固定 CH ^{※ 3}	CH01 ～ CH82 未設定	セカンダリ PTT の設定が“待受 + 固定 CH 送信”または“固定 CH 送信”の時に送信するチャンネルを設定します。	44
送信出力	High /Low/Mid	送信出力を設定します。 High (5W) /Low (1W) / Mid (2.5W)	44
音声自動送信 (VOX)	OFF/ハンドマイク/外部マイク/ Bluetooth [*]	音声で自動的に送信状態になる、音声自動送信 (VOX) 機能を動作させるマイクを選択します。	34
VOX 感度 《音声自動送信“ON”時のみ》	レベル 01 ～ 08 ～レベル 15	音声自動送信 (VOX) 機能で、音声で送信状態になる感度を設定します。	44
メイン画面	メーター / 標準 / 大 / 特大 / 詳細	周波数 (チャンネル) 表示画面の文字の大きさや表示内容を設定します。	44
Bluetooth 機能	OFF /ON	Bluetooth [®] 機能をオン / オフします。	45
Bluetooth 機器検索 ^{※ 4}	—	Bluetooth [®] ヘッドセットを検索して接続します。	45
Bluetooth 登録機器一覧 ^{※ 4}	—	登録済の Bluetooth [®] ヘッドセットを接続します。一覧の中から [UP] または [DOWN] キーで接続したいヘッドセットを選んで [P1] キーを押すと接続できます。	45
Bluetooth 登録機器削除 ^{※ 4}	—	登録済の Bluetooth [®] ヘッドセットを削除します。一覧の中から [UP] または [DOWN] キーで削除したいヘッドセットを選んで [P1] キーを押すと登録を削除できます。	46
Bluetooth マイク感度 ^{※ 4}	-18 ～ -1 0 / +1 ～ +18	Bluetooth [®] ヘッドセットのマイク感度を調節します。	46
Bluetooth スピーカー出力 ^{※ 4}	許可 / 禁止	Bluetooth [®] 運用時のスピーカーからの音声出力を“禁止”または“許可”します。	46

項 目	設定値 (初期値：太字)	機 能	ページ
Bluetooth セーブ※ 4	オン / オフ	Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を少なくするセーブ機能をオン / オフします。	46
Bluetooth 初期化※ 4	—	Bluetooth® の設定だけを初期化します。	47
自局情報	—	無線機に設定されている UC (ユーザーコード)、個別 ID、グループ ID を表示します。	47
無線機情報	—	現在使用しているチャンネルの周波数を表示します。	47

※ 1：セットメニュー “F22 セカンダリ PTT” の設定が “PA” 時のみ

※ 2：あらかじめプログラミングソフトウェア “YCE48B” でプログラミングする必要があります。YCE48B は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (<https://connect.yaesu.com>)。

※ 3：セットメニュー “F22 セカンダリ PTT” の設定が “待受 + 固定 CH 送信” または “固定 CH 送信” 時のみ

※ 4：Bluetooth 機能が “ON” 時のみ

ユーザーコード

UC (ユーザーコード) 通信に使用するユーザーコードを “000” ～ “511” のの中から設定します。

1. [機能] キー → 「ユーザーコード」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して数字を選択します。
3. [P1] キーを押すと、数字を選択する桁が右に移動します。
4. 手順 2 と 3 を繰り返して 3 桁のユーザーコードを入力します。
5. 3 桁目を選択して [P1] キーを押すと、設定が保存されます。
6. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 画面に戻ります。

リモート PA

リモート PA コマンドを含む信号を受信した際に、受信音を外部スピーカーから出力する “リモート PA 機能” の動作を設定します。

1. [機能] キー → 「リモート PA」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “ON” を選び、[P1] キーを押します。
3. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻り、リモート PA 機能が動作します。

リモート PA がオンのときは、画面に “リモート PA” が点灯します。

リモート PA をオフにするには、手順 2 で “OFF” を選択します。

リモートPA受信

リモートPA コマンドを含む信号を受信した際に、リモートPA で送られた音声を外部スピーカーで出力するかどうかを設定します。

1. [機能] キー → 「リモートPA 受信」 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “受信する” を選び、[P1] キーを押します。
3. [戻る] キーを押すと周波数（チャンネル）表示に戻ります。

リモートPA の信号を受信すると、外部スピーカーから自動的に受信した音声が出ます。

リモートPA 受信をオフにするには、手順2で “受信しない” を選択します。

ライト禁止

ディスプレイとキーの照明および、LED インジケータの点灯をオン / オフします。

1. [機能] キー → 「ライト禁止」 を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “許可”（オン、初期値） / “禁止”（オフ）を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、周波数（チャンネル）表示に戻ります。

秘話機能

32,767 通りの秘話コードが一致する無線機どうしだけが交信することができる機能です。秘話機能を利用するには秘話コードの設定が必要です。秘話の通信を受信しているときは、LED インジケータが “青色” で点滅します。

● 秘話機能をオン / オフする

1. [機能] キー → 「秘話」 を選択 → [P1] キー
 2. [UP] または [DOWN] キーを押して、“ON” を選択します。
 3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
 4. [戻る] キーを押すと、周波数（チャンネル）表示に戻ります。
- 秘話機能をオフにするには、手順2で “OFF” を選択します。

● 秘話コードを設定する

1. [機能] キー → 「秘話コード」 を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、秘話コードの一桁目の数字を選択します。
秘話コードは “00001” ～ “32767” の範囲で設定できます。
3. [P1] キーを押すと、秘話コードを選択できる桁が右に移動します。
手順2. と 3. の操作を繰り返して5桁のコード入力します。
4. 5桁目を設定して [P1] キーを押すと、秘話コードが確定されます。
5. [戻る] キーを押すと、周波数（チャンネル）表示に戻ります。

再生（受信時自動録音機能）

無線機の電源を入れると、受信した音声を自動で録音する機能が動作します。通話内容を聞き逃した時などに、内容を確認することができます。

1. [機能] キー → 「再生」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して再生したい件名（1 件前～5 件前）を選択します。
3. [P1] キーを押すと、録音内容を再生します。

注意

- ・最大 5 件まで録音でき、5 件を超えて録音されると、古い方から順番に上書きされます。
- ・電源を切ると、録音された内容は全て消去されます。

録音メモ

プログラムキーを押して相手の音声を録音することができます。

再生（受信時自動録音機能）と違い電源を切っても録音内容を維持するため、後で繰り返し内容を確認することができます。

●録音のしかた

1. 録音機能を割り当てたプログラムキー（[P1] キーまたは [P2] キー）を押すと録音を開始します。
“REC” が表示されます。
2. 再度録音機能を割り当てたプログラムキー（[P1] キーまたは [P2] キー）を押すと録音を停止します。

●再生のしかた

1. [機能] キー → 「録音メモ」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して再生したい件名（1 件～10 件）を選択します。
3. [P1] キーを押すと、録音内容を再生します。

補足

- ・再生中に [P1] キーを押すと、再生を中止します。
- ・[UP] または [DOWN] キーを押して「全消去」を選択して [P1] キーを押すと、録音した内容は全件消去されます。

クイックアンサー機能

クイックアンサーは、音声を発して応答できないような状況の時に使用する機能です。例としてあらかじめ「了解しました。後程応答します。」などの音声を録音しておき、プログラムキー（[P1] キーまたは [P2] キー）を押すと録音した音声を送信されます。

●録音のしかた

1. [機能] キー → 「クイックアンサー」を選択 → [P1] キー
2. [P1] キーを押します。

“録音中” と表示され録音を開始しますので、**PTT を押さずに**マイクに向かって録音したい内容をお願いします。録音中に [P1] キーを押すと、録音を停止します。

補足 録音時間は最大 30 秒で、録音件数は 1 件です。

●録音内容の送信のしかた

1. クイックアンサー機能を登録した [P1] キーまたは [P2] キーを押します。
録音した音声を送信されます。

●録音内容の再生 / 消去のしかた

1. [機能] キー → 「クイックアンサー」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、“再生” または “消去” を選択して [P1] キーを押します。

待受受信

セットメニュー「F23 待受受信タイプ」で設定したチャンネルを待受受信して、UCコードが一致する信号を待受することができます。

待受受信に関しては、12 ページの「マルチチャンネル待受機能」も併せて参照してください。

1. [機能] キー → 「待受受信」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “ON” を選択します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと周波数（チャンネル）表示に戻り、ディスプレイ左下に “S” アイコンが表示され、待受受信機能が有効になります。
待受受信機能は、電源を入れ直しても動作を継続します。待受受信機能を無効にするには、手順2で “OFF” を選択します。

補足 [P1] キーまたは [P2] キーに “待受受信” を設定すると、これらのキー操作で待受受信機能のオン / オフを切り替えることができます。

待受受信 CH

待受受信タイプの “プログラム 1” および “プログラム 2” のそれぞれに、待受したいチャンネルを登録します。

●プログラム 1 / プログラム 2 のチャンネル登録

1. あらかじめ「F23 待受受信タイプ」で、チャンネルを登録する “プログラム 1”、“プログラム 2” を選択しておきます。
2. [機能] キー → 「待受受信 CH」を選択 → [P1] キー
3. [UP] または [DOWN] キーを押して登録したいチャンネルを選択します。
CH01 ~ CH82 の任意のチャンネルまたは、全チャンネルを選択できます。
4. [P1] キーを押し、[UP] または [DOWN] キーを押して “ON” を選びます。
5. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
6. 手順3~5を繰り返して、登録する全てのチャンネルの設定を “ON” にします。
7. [戻る] キーを 2 回押すと、周波数（チャンネル）表示に戻ります。
待受受信登録されたチャンネルでは、ディスプレイ左側に “S” アイコンが表示されます。

待受受信指定CH1/待受受信指定CH2

セットメニュー「F24 待受受信 PTT」(62 ページ参照) で“指定CH1”または“指定CH2”に設定した場合に、PTT を押した時に送信するチャンネルを設定します。

1. [機能] キー → 「待受受信指定CH1」または「待受受信指定CH2」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して登録したいチャンネルを選択します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

2nd PTT 固定CH

セカンダリ PTT の設定が“待受 + 固定CH 送信”または“固定CH 送信”の時に送信するチャンネルを設定します。

1. [機能] キー → 「2nd PTT 固定CH」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して設定したいチャンネルを選択します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

送信出力

送信出力を High(5W)/Mid(2.5W)/Low(1W) に切り換えることができます。相手との距離が近い場合などは、送信出力を下げて運用してください。

1. [機能] キー → 「送信出力」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して送信出力を選択します。
High : 送信出力 5W
Mid : 送信出力 2.5W
Low : 送信出力 1W
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

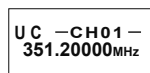
音声自動送信 (VOX) /VOX 感度

34 ページの「音声自動送信 (VOX) 機能」を参照してください。

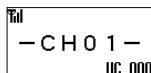
メイン画面

周波数 (チャンネル) 表示画面の表示方法を選択できます。

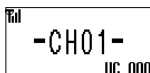
1. [機能] キー → 「メイン画面」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、希望の表示方法を選択します。



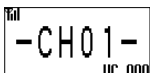
メーター



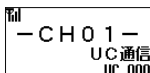
標準



大



特大



詳細

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

Bluetooth 機能

本機の Bluetooth 機能を設定します。ヘッドセットの検索、登録のほか、登録済ヘッドセット一覧や削除、マイク感度、セーブ機能、設定の初期化などができます。

● Bluetooth® 機能のオン/オフ

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キーを2回押す
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON”または“OFF”（初期値）を選択します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを2回押すと、周波数（チャンネル）表示に戻ります。

● Bluetooth 機器検索（Bluetooth 機能が“ON”時のみ）

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「機器検索」を選択します。
3. [P1] キーを押します。
Bluetooth® ヘッドセットの検索が始まります。
4. 接続する Bluetooth® ヘッドセットを操作して、ペアリングモードにします。
Bluetooth ヘッドセットが見つかったら、Bluetooth® ヘッドセットの名称と接続確認画面が表示されます。
5. [UP] または [DOWN] キーを押して、接続したいヘッドセットを選択します。
6. [P1] キーを押すと接続されます。
7. [戻る] キーを2回押すと、周波数（チャンネル）表示に戻ります。

本機とヘッドセットが接続されると、ディスプレイ上部に Bluetooth® アイコン “” が表示されヘッドセットを使うことができます。

補足

- ・合計 8 台までの Bluetooth® 機器を登録できますが、本製品と Bluetooth® 機器を 1 対 1 の組み合わせで設定されることをお勧めします。
- ・2023 年 8 月現在、動作を保証している Bluetooth® 機器は SSM-BT10 です。

● Bluetooth 登録機器一覧（Bluetooth 機能が“ON”時のみ）

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「登録機器一覧」を選択します。
3. [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して接続するヘッドセットを選び、[P1] キーを押すと接続されます。
5. [戻る] キーを2回押すと、周波数（チャンネル）表示に戻ります。

本機とヘッドセットが接続されると、ディスプレイ上部に Bluetooth® アイコン “” が表示されヘッドセットを使うことができます。

補足

Bluetooth® ヘッドセットで音声自動送信（VOX）機能を使うには、「音声自動送信（VOX）」（34 ページ参照）の設定を“Bluetooth”にします。

●Bluetooth 登録機器削除 (Bluetooth 機能が“ON”時のみ)

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「登録機器削除」を選択します。
3. [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して登録を削除するヘッドセットを選択して [P1] キーを押します。
5. [戻る] キーを2回押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

●Bluetooth のマイク感度を調節する (Bluetooth 機能が“ON”時のみ)

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「マイク感度」を選択します。
3. [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押してヘッドセットからの音声のマイク感度を調節 (工場出荷時設定は“0”) して [P1] キーを押します。
5. [戻る] キーを2回押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

●Bluetooth 接続時のスピーカーからの音声出力 (Bluetooth 機能が“ON”時のみ)

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「スピーカー出力」を選択します。
3. [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して“禁止”または“許可”を選び、[P1] キーを押します。(工場出荷時設定は“禁止”)
5. [戻る] キーを2回押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

●Bluetooth のセーブ機能を設定する (Bluetooth 機能が“ON”時のみ)

Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を少なくすることができます。

注意 Bluetooth® の音声自動送信 (VOX) 機能が有効になっている場合は、セーブ機能を“ON”に設定しても、Bluetooth® セーブ機能は動作しません。

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「セーブ」を選択して [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON”または“OFF”を選び、[P1] キーを押します。(工場出荷時設定は“OFF”)
4. [戻る] キーを2回押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

補足

- ・セーブ機能は、約 5 秒間ヘッドセットの操作や送受信をしなかった場合に、ヘッドセットを一時的に休止状態にしてバッテリーの消費を減らす機能です。休止状態中にヘッドセットの操作や送受信を行うと休止状態は解除されます。
- ・休止状態中に送信する場合は、送受信切り替えボタンを押してから音声を送られるまでに若干の時間を要するため、送受信切り替えボタンを押した後一呼吸おいてから話を始めてください。

● Bluetooth の設定初期化 (Bluetooth 機能が “ON” 時のみ)

Bluetooth[®] に関する設定やヘッドセットの登録を初期化します。

1. [機能] キー → 「Bluetooth」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「初期化」を選択して [P1] キーを押します。
3. 確認画面が表示されますので、[UP] または [DOWN] キーを押して “YES” を選択します。
初期化を中止する時は “NO” を選択して [P1] キーを押します。
4. [P1] キーを押します。
5. Bluetooth[®] の設定が初期化されます。
6. [戻る] キーを押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

自局情報

無線機に設定してある UC (ユーザーコード)、個別 ID、グループ ID を画面に表示します。GPS が測位されている状態の場合は、現在地の緯度経度、日時を表示します。

1. [機能] キー → 「自局情報」を選択 → [P1] キー
2. UC (ユーザーコード)、個別 ID、グループ ID が表示されます。
3. [P1] キーを押すと、現在地の緯度経度 (GPS を捕捉している時)、日時の表示に変わります。
[P1] キーを押すたびに表示が切り替わります。
4. [戻る] キーを2回押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

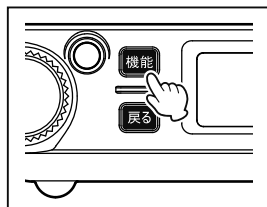
無線機情報

現在のチャンネルの周波数を表示します。

1. [機能] キー → 「無線機情報」を選択 → [P1] キー
周波数が表示されます。
2. [戻る] キーを2回押すと、周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

個別通信の簡易設定（個別通信時のみ）

個別通信時の周波数表示中に [機能] キーを長押しすると、個別通信の設定画面が表示され、宛先 ID の設定やアンサーバック機能、着信履歴、発信履歴、メッセージ機能の操作などができます。



項目	機能
宛先 ID	個別通信時に呼び出したい相手局の個別 ID を設定します。
アンサーバック	宛先 ID の相手局と通話が可能かどうかを確認するアンサーバック機能が動作します。 “応答あり” の表示：相手からの確認信号を受信した時（通話可能） “応答無し” の表示：相手からの確認信号を受信できなかった時（通話不可）
着信履歴	呼び出してきた局の ID の履歴を 10 件まで表示します。 [UP] または [DOWN] キーで応答したい局を選んで [P1] キーを押すと、宛先 ID が自動的に呼び出してきた局の ID に設定されますので、PTT を押すだけで、呼び返すことができます。
発信履歴	自分が呼び出した相手の ID の履歴を 10 件まで表示します。 [UP] または [DOWN] キーで、再度呼び出したい局を選んで [P1] キーを押すと、宛先 ID が自動的に変更されますので、PTT を押すだけで、呼び出すことができます。
メッセージ送信	あらかじめ登録されたメッセージ（最大 10 件）を送信します。 [UP] または [DOWN] キーで送信したいメッセージを選んで [P1] キーを押すと、メッセージが送信されます。 登録されているメッセージは、プログラミングソフトウェア “YCE48B” でプログラミングできます。YCE48B は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (https://connect.yaesu.com)。
メッセージ確認	受信したメッセージの履歴を 10 件まで表示します。 [UP] または [DOWN] キーで表示したいメッセージを選んで [P1] キーを押すと、メッセージが表示されます。
コール動作	個別送信前に、呼び出し音を鳴らして相手局に通知するコール機能を設定します。
リモート制御	指定した無線機に対し、周囲の音を聞いたり、無線機を操作できないようにロックしたり、アラームを鳴らすなどのリモート制御をすることができます。

宛先 ID

30 ページの「特定の相手呼び出す（個別呼出）」を参照してください。

アンサーバック

個別通信時に宛先が個別 ID に設定している場合に、宛先 ID の相手局と通話ができるかどうかを確認することができます。

1. [機能] キー長押し → 「アンサーバック」を選択 → [P1] キー
“問い合わせ中” が表示され、無線機が自動で問合せ信号を送信して通話が可能かどうかを確認し、結果を画面に表示します。
“応答あり” の表示：相手からの確認信号を受信した時（通話可能）。
“応答無し” の表示：相手からの確認信号を受信できなかった時（通話不可）。
2. PTT を押して相手局と通話するか、[戻る] キーを押して周波数画面に戻ります。

着信履歴 / 発信履歴

個別通信時に呼び出した相手局や、呼び出してきた相手局の ID の履歴をそれぞれ 10 件まで確認できます。

1. [機能] キーを長押しします。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「着信履歴」または「発信履歴」を選び、[P1] キーを押します。
3. 着信履歴または発信履歴が表示されます。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して履歴を選択します。
5. PTT を押すと、現在表示している履歴の個別 ID を呼び出すことができます。

補足

履歴を削除するには、上記の手順 4 の後に [P1] キーを押し、[UP] または [DOWN] キーで“削除”を選択して [P1] キーを押します。確認画面が表示されたら、[UP] または [DOWN] キーで“YES”を選択して、[P1] キーを押します。

メッセージ送信

あらかじめ登録されているメッセージ（最大 10 件）を送信することができます。相手局も、下記と同じ内容のメッセージを同じ順番で登録します。

1. メッセージを送りたい相手を指定します（30 ページ参照）。
2. [機能] キー長押し → 「メッセージ送信」を選択 → [P1] キー
3. [UP] または [DOWN] キーを押して、送信するメッセージを選びます。
工場出荷時には、以下の 10 件のメッセージが登録されています。

- | | | |
|---------------|------------|------------|
| ・ 緊急事態が発生しました | ・ 集合してください | ・ 至急連絡願います |
| ・ 開始しました | ・ 運転中です | ・ 完了しました |
| ・ 出発しました | ・ 作業中です | ・ 到着しました |
| | | ・ 待機中です |

補足

登録されているメッセージは、プログラミングソフトウェア“YCE48B”でプログラミングできます。YCE48B は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (<https://connect.yaesu.com>)。

4. [P1] キーを押すと、メッセージが送信されます。
相手局に正しくメッセージが送信されると、宛先と“応答あり”が表示されます。電波が届かない、電源が切れているなどで相手にメッセージが届かない場合は“応答無し”を表示します。
5. [戻る] キーを押すと、周波数画面に戻ります。

メッセージ確認

受信したメッセージを、新しい順に最大 10 件まで表示することができます。

1. [機能] キー長押し → 「メッセージ確認」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、確認したいメッセージを選択します。
3. [P1] キーを押すと、メッセージの内容が表示されます。
4. [戻る] キーを3回押すと、周波数画面に戻ります。

補足

メッセージを削除する場合は、上記の手順3の後に、[P1] キーを押します。確認画面が表示されたら、[UP] または [DOWN] キーで “YES” を選択して、[P1] キーを押します。

コール動作

個別通信にて個別呼び出しを行う際に、相手局に問い合わせをする機能で、PTT 短押しで相手局への呼び出しを開始し、通話圏内に相手局がいた場合は、呼び出し元、呼び出し先双方で呼び出し音が鳴ります。呼び出しを受けた側は呼び出し音が鳴っている間に PTT を押して通話を開始します。

相手局が圏外であった場合は、宛先 ID と “応答無し” が表示されて呼び出すことはできません。

PTT 長押しで呼び出しをすることなく、送信することができます。

補足

コール機能を使用するためには、あらかじめ「C13 コールモード」の設定を “ON” または “CH 毎” に設定しておきます (69 ページ参照)。

1. [機能] キー長押し → 「コール動作」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “ON” / “OFF” (初期値) を設定します。
3. [P1] キーを押すと、メッセージの内容が表示されます。
4. [戻る] キーを押すと、周波数画面に戻り、コール機能が動作します。

リモート制御

指定した無線機に対して、下表のリモート操作をすることができます。

1. リモート制御したい相手局の個別 ID を指定します。(30 ページ参照)。
2. [機能] キーを長押し → 「リモート制御」を選択 → [P1] キー
3. [UP] または [DOWN] キーを押して、機能を選びます。

機 能	動 作
モニター	指定した無線機の周辺の音を聞くことができます。
ロック	指定した無線機を操作できないようにロックします。
パスワードロック	指定した無線機を操作できないようにロックします。 ロックされた無線機は、あらかじめ決めておいたパスワードを入力することで、ロックを解除できます。
ロック解除	“ロック” または “パスワードロック” を解除します。
アラーム ON	指定した無線機のスピーカーから、アラームを鳴らします。
アラーム OFF	鳴らしたアラームを停止します。

5. [P1] キーを押すと、指定した無線機に対し、制御動作を行います。
- 正しく制御操作が行われると、リモート宛先 ID と“応答あり”が表示されます。
電波が届かない、電源がオフになっているなどの理由で制御できなかった場合は
リモート宛先 ID と“応答無し”を表示します。
6. [戻る] キーを押すと、周波数画面に戻ります。

拡張機能

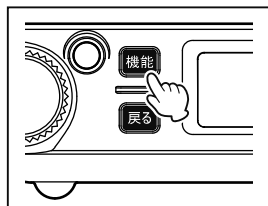
拡張機能には“セットメニュー”（53 ページ参照）と“コールメニュー”（65 ページ参照）があり、無線機の各種設定、通信関係の設定などを行うことができます。

機能拡張メニューの基本的な操作方法

機能拡張メニューの基本的な操作方法について説明します。

1. [機能] キーを押しながら電源を入れます。

機能拡張メニューが表示します。



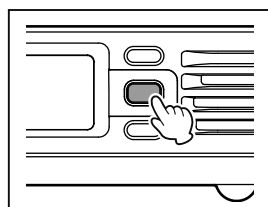
2. 設定するメニューを選択します。

[UP] または [DOWN] キーを押して“セットメニュー”または“コールメニュー”を選択して、[P1] キーを押します。



3. 設定項目を選択します。

[UP] または [DOWN] キーを押して設定する項目を選択して [P1] キーを押します。
設定値が点滅して表示されます。



4. 設定値を変更します。

[UP] または [DOWN] キーを押して設定値を変更します。設定について詳しくは、各項目の説明を参照してください。

※ [戻る] キーを押すと変更をキャンセルして 1 つ前の画面に戻ります。

5. 設定値を確定します。

[P1] キーを押して設定を確定します。

6. 設定メニューを終了します。

電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

セットメニュー

項目	設定値 (初期値: 太字)	機能
F01 ディマー	レベル 00 (消灯) / 01/02/03	バックライトの輝度
F02 コントラスト	レベル 00 ~ 08 ~ 15	画面表示のコントラスト
F03 ビープレベル	連動 (-8 ~ ± 0 ~ +7) / 固定 (レベル 00 ~ 08 ~ 15) OFF	ビープ音量設定 (キー、起動、 通知、警告)
F04 外部マイク感度	-18dB/-12dB/-6dB/-3dB/ 0dB /+3dB/+6dB/+10dB	外部マイクの感度設定
F05 ハンドマイク感度	-18dB/-12dB/-6dB/-3dB/ 0dB /+3dB/+6dB/+10dB	ハンドマイクの感度設定
F06 キーロック	キー / ALL/PTT	ロックするキーの設定
F07 緊急モード	OFF / アラーム / 送信 / アラーム + 送信 / サイレント	緊急モード時の動作設定
F08 TX ビープ	OFF /ON	送信開始ビープ設定
F09 RX ビープ	OFF /ON	相手局の送信終了ビープ
F10 送信出力制限	High 許可 / Mid 許可 / Low 固定 / 受信専用	最大送信出力の設定
F11 弱電界アラーム	OFF / アラーム デフォルト / アラーム A ~ アラーム M	受信信号が弱い場合のアラーム設定
F12 不在着信ベル	回数 OFF /5 秒毎×2 回 / 2 秒毎 / 1 分毎 / 連続	個別着信時に応答しなかった 場合に鳴るベルの設定
	音タイプ A ~ M	
F13 アンサーバック	OFF/ON	相手局に電波が届いているか を確認する機能の設定
F14 CH ガイダンス	OFF / 連動 / 固定	チャンネルの音声案内設定
F15 クイックアンサー	OFF/ON	音声メッセージ送信機能の 設定
F16 GPS モード	OFF / 定期送信 / 通話時送信 / 定期送信 + 通話時送信	自局の位置情報を送出する タイミングの設定
F17 PTT ホールド	OFF/ON	PTT ホールドの設定
F18 ワンタッチ VOL	レベル 00 ~ レベル 31	ワンタッチボリューム設定 キー操作時の音量の設定
F19 CH 空き通知	OFF/ON	チャンネル空き通知の設定
F20 セミ VOX	OFF/ON	PTT の短押しで送信を開始、 音声入力が無くなると送信を 終了する機能の設定
F21 VOX 送信保持時間	OFF/0.2 秒 / 0.5 秒 / 1 秒 / 1.5 秒 / 2 秒 / 3 秒	VOX 送信状態から受信状態 に戻るまでの遅延時間設定
F22 セカンダリ PTT	待受受信時送信 / PA/ 待受 + 固定 CH 送信 / 固定 CH 送信 / 使用しない	セカンダリ PTT の動作設定

項 目	設定値（初期値：太字）	機 能
F23 待受受信タイプ	プログラム 1 / プログラム 2	待受受信方式の設定
F24 待受受信 PTT	ポジション CH / 最終通話 CH / AUTO / 指定 CH1 / 指定 CH2	待受受信機能動作中の送信 チャンネル設定
F25 待受受信 RX	待受受信続行 / 待受受信終了	待受受信機能の着信後の待受 受信再開設定
F26 上空チャンネル	OFF / モニター	上空用チャンネル（CHS1 ～ CHS15）の受信可否設定。
F27 RX イコライザー	OFF / 高域強調 / 中域強調	受信音を“高域を強調”または “中域を強調”した音質に 変更できます
F28 TX イコライザー	OFF / 高域強調 / 中域強調	送信音を“高域を強調”または “中域を強調”した音質に 変更できます。
F29 P1 キー短	設定できる項目と初期値について は、9 ページの「P1 キー / P2 キーの機能を変更する」を 参照してください。	[P1] キーまたは [P2] キー を短押しした時、長押しした 時の機能の設定
F30 P1 キー長		
F31 P2 キー短		
F32 P2 キー長		
F33 CUE スピーカー	フロントスピーカー / デフォルト	CUE 受信時に音を出すス ピーカーを選択します。
F34 履歴リセット	—	着信、発信、メッセージの 履歴消去
F35 設定リセット	—	無線機のすべての設定の初期 化

F01 ディマー

ディスプレイとキーのバックライトの明るさを調節します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F01 ディマー」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してバックライトの明るさ（レベル 00、01、02（初期値）、03）を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F02 コントラスト

ディスプレイ表示のコントラストを調節します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F02 コントラスト」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して表示のコントラスト（レベル 00 ～ 15（初期値 08））を調節します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F03 ビープレベル

ビープ音の音量を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F03 ビープレベル」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して設定するビープを選択して、[P1] キーを押します。

キービープ	キーを押した時のビープ音
起動ビープ	電源を入れた時のビープ音
通知ビープ	着信音のビープ音
警告ビープ	動作エラー時のビープ音

3. [UP] または [DOWN] キーを押して動作を選び [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して音量レベルを設定し [P1] キーを押します。

連動	-8 ~ +7 (初期値 ± 0)	電源 / 音量ツマミに連動して、ビープ音の音量が変わります。レベルを変えることにより、連動するビープ音の音量を変えることができます。
固定	00 ~ 15 (初期値 08)	電源 / 音量ツマミの位置に関係なく、設定した音量でビープ音が鳴ります。
OFF	—	ビープ音は鳴らなくなります。

5. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
6. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F04 外部マイク感度

アクセサリー（ACC）端子のオーディオ入力感度を調節します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F04 外部マイク感度」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してアクセサリー（ACC）端子のオーディオ入力感度（初期値 0dB）を調節します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F05 ハンドマイク感度

ハンドマイクの感度を調節します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F05 ハンドマイク感度」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してハンドマイクの感度(初期値0dB)を調節します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数(チャンネル)表示に戻ります。

F06 キーロック

キーロック時にロックするキーや PTT を選択することができます。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F06 キーロック」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してロックするキーなどを選択します。

キー(初期値)	キーロックに設定したプログラムキー操作以外のキー
ALL	キーロックに設定したプログラムキー操作以外のすべて
PTT	PTT(セカンダリ PTT スイッチを含む)のみ

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数(チャンネル)表示に戻ります。

F07 緊急モード

緊急機能を動作させた時の動作を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F07 緊急モード」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して緊急機能の動作を選択します。

OFF(初期値)	緊急動作は動作しません。
アラーム	アラーム音が鳴ります。
送信	送信状態になります。
アラーム + 送信	アラーム音が鳴り、送信状態になります。
サイレント	画面の表示を変えず、音も鳴らさずに緊急送信をします。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数(チャンネル)表示に戻ります。

F08 TX ビープ

自局の送信開始時に鳴るビープ音をオン/オフします。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F08 TX ビープ」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON” / “OFF”(初期値)を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数(チャンネル)表示に戻ります。

※ Bluetooth ヘッドセットで音声自動送信(VOX)機能が有効な場合、TX ビープの設定が“OFF”でも、送信状態になった時に常にビープ音が鳴ります。

F09 RX ビープ

相手局の送信終了を知らせるビープ音をオン / オフします。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F09 RX ビープ」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “ON” / “OFF” (初期値) を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F10 送信出力制限

選択できる最大送信出力を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F10 送信出力制限」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、選択できる最大送信出力を選択します。

High 許可 (初期値)	High パワー (5W) を含む全ての送信出力を選択できます。
Mid 許可	選択できる最大送信出力は、Mid パワー (2.5W) までになります。
Low 固定	送信出力は Low パワー (1W) だけになり、その他の出力は選択できません。
受信専用	送信が禁止になり、受信専用になります。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F11 弱電界アラーム

受信信号が微弱になったことを知らせるアラームのオン / オフを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F11 弱電界アラーム」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “OFF” (初期値) / “アラームデフォルト” / “アラーム A” ~ “アラーム M” を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F12 不在着信ベル

相手からの個別呼び出しを受けた時に応答しなかった場合、設定した条件でベル（アラーム音）を鳴らすことができます。

注意 “グループ呼び出し” や “一斉呼び出し” での着信では、ベルは鳴りません。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F12 不在着信ベル」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して希望の動作を選択して、[P1] キーを押します。

OFF（初期値）	ベルは鳴りません。
5 秒毎×2回	5 秒毎に 2 回鳴らします。
2 秒毎	2 秒毎に連続して鳴らします。
1 分毎	1 分毎に連続して鳴らします。
連続	連続でベルを鳴らします。

3. [UP] または [DOWN] キーを押してベル音の種類（A ～ M の 13 種類）を選択して [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F13 アンサーバック

特定の相手局と通話できる状態が確認するアンサーバック機能のオン / オフを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F13 アンサーバック」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “ON”（初期値） / “OFF” を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F14 CH ガイダンス

電源を入れた時や周波数（チャンネル）を変更した時に、チャンネル番号を音声でアナウンスする機能を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F14 CH ガイダンス」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して動作を設定します。

OFF（初期値）	音声アナウンスは行いません。
連動	VOL ツマミに連動して、アナウンスの音量が変わります。
固定	VOL ツマミの位置に関係なく、設定された音量でアナウンスします。設定の変更はプログラミングソフトウェア“YCE48B”で行います。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F15 クイックアンサー

クイックアンサー機能を設定したプログラムキー（P1 または P2）を押すと、あらかじめ録音してある音声メッセージを送信する機能のオン / オフを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F15 クイックアンサー」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“ON”（初期値） / “OFF”を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F16 GPS モード

GPS 信号から得た位置情報データを送信するタイミングを設定します。

- 補足**
- ・ オプションの GPS アンテナ“SCU-38”を無線機背面の GPS 端子に接続してください。
 - ・ 個別通信時のみ動作します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F16 GPS モード」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して送信タイミングを選択します。

OFF（初期値）	位置情報データの送信は行いません
定期送信	設定された間隔 [*] で位置情報データを送信します。
通話時送信	送信を行うたびに位置情報データを送信します。
定期送信 + 通話時送信	設定された間隔 [*] および、送信を行うたびに位置情報データを送信します。

^{*}送信間隔の変更はプログラミングソフトウェア“YCE48B”で行います。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F17 PTT ホールド

PTT (セカンダリ PTT スイッチを含む) の動作を、一度押して放しても送信したままで、もう一度押すと受信に戻る動作に変更することができます。
詳しくは 36 ページの「PTT ホールド機能」を参照してください。

F18 ワンタッチ VOL

ワンタッチ VOL に設定したプログラムキー([P1] キーまたは [P2] キー)を押すと、電源 / 音量ツマミをまわさずに、ワンタッチでこの設定項目で設定した音量に一時的に固定することができます。もう一度プログラムキーを押すと解除されます。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F18 ワンタッチ VOL」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して音量 (レベル 00 (初期値) ~ レベル 31) を調節します。
レベル 00 では、無音 (ミュート) 状態になります。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F19 CH 空き通知

使用したいチャンネルがすでに通話中の時、PTT を 2 回短押しすると、チャンネルが空いた時にピープ音で知らせます。この「CH 空き通知機能」のオン / オフを設定します。

補足

CH 空き通知機能を使用するには、あらかじめプログラミングソフトウェア「YCE48B」でプログラミングします。YCE48B は当社ウェブサイトからダウンロードすることができます (<https://connect.yaesu.com>)。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F19 CH 空き通知」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「ON」 / 「OFF」 (初期値) を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F20 セミ VOX

音声自動送信 (VOX) 機能を使用中、周囲の騒音などで不用意に送信しないようにすることができます。自動で送信状態にはならず、PTT を押すと送信状態になり、話をしている間は PTT を放しても送信を続け、話を止めると自動で待受状態に戻るセミ VOX 機能のオン / オフを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F20 セミ VOX」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して「ON」 / 「OFF」 (初期値) を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F21 VOX 送信保持時間

音声自動送信 (VOX) 機能の、話を止めてから待受状態に戻るまでの時間を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F21 VOX 送信保持時間」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、待受状態に戻るまでの時間 (OFF/0.2 秒 /0.5 秒 /1 秒 (初期値) /1.5 秒 /2 秒 /3 秒) を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F22 セカンダリ PTT

“セカンダリ PTT” が割り当てられた [P1] キーまたは [P2] キーを押した時の動作を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F22 セカンダリ PTT」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して希望の動作を設定します。

待受受信時送信 (初期値)	待受受信を開始した時のチャンネルで送信します。
PA	PA 機能として動作します。
待 受 + 固 定 CH 送信	待受受信時は“待受受信を開始した時のチャンネル”で送信し、待ち受け受信 OFF 時は、CH01 で送信します。
固定 CH 送信	CH01 で送信します。
使用しない	セカンダリ PTT は使用しません。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F23 待受受信タイプ

マルチチャンネル待受受信機能動作時の待受方式を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F23 待受受信タイプ」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して待受方式を選択します (初期値：プログラム 1)。
プログラム 1 / 2 : 待受したい複数のチャンネルをあらかじめ設定し、チャンネルを自動的に切り替えて待受します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

F24 待受受信 PTT

マルチチャンネル待受中に、PTT を押した時に送信するチャンネルを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F24 待受受信 PTT」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して希望の動作を設定します。

ポジション CH (初期値)	通話チャンネルで送信します
最終通話 CH	最後に待受受信で停止したチャンネルで送信します
AUTO	待受受信中に PTT を押すと、その時のチャンネルに通話相手も自動で移動します。相手局からの受信信号が十分強い状態で使用してください。
指定 CH1	簡易メニューの「待受受信指定CH1」で設定したチャンネルで送信します
指定 CH2	簡易メニューの「待受受信CH2」で設定したチャンネルで送信します

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F25 待受受信 RX

待受受信中に、信号を受信して待受受信が停止した後の待受受信再開条件を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F25 待受受信 RX」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して希望の動作を選択します。

待受受信続行 (初期値)	一定時間が経過すると待受受信を再開します。
待受受信終了	待受受信は終了し、停止したチャンネルに移行します。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F26 上空チャンネル

上空用の 15 チャンネル (CHS1 ~ CHS15) をモニター（受信）できるようになります。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F26 上空用チャンネル」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “OFF” (初期値) / “モニター” を設定します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F27 RX イコライザー機能

受信音を“高域を強調”または“中域を強調”した音質に変更することができます。

1. [機能]キー+電源オン → [P1]キー → 「F27 RX イコライザー」を選択 → [P1]キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して希望の音質を選択します（初期値“OFF”）。
OFF/ 高域強調 / 中域強調
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F28 TX イコライザー機能

送信音を“高域を強調”または“中域を強調”した音質に変更することができます。

1. [機能]キー+電源オン → [P1]キー → 「F28 TX イコライザー」を選択 → [P1]キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して希望の音質を選択します（初期値“OFF”）。
OFF/ 高域強調 / 中域強調
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F29 P1 キー短 / F30 P1 キー長 / F31 P2 キー短 / F32 P2 キー長

[P1] キーまたは [P2] キーを押した時の機能を変更できます。詳しくは、“P1 キー / P2 キーの機能を変更する”（9 ページ参照）を参照してください。

F33 CUE スピーカー

CUE 受信時に音を出すスピーカーを選択します。

1. [機能]キー+電源オン → [P1]キー → 「F33 CUE スピーカー」を選択 → [P1]キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、音を出すスピーカーを選択します（初期値“フロントスピーカー”）。

デフォルト	無線機に設定されているスピーカーから音を出します。
フロントスピーカー	無線機に設定されているスピーカーの設定に関わらず、無線機本体のフロントスピーカーから音を出します。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F34 履歴リセット

着信履歴、発信履歴、メッセージ履歴を消去します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F34 履歴リセット」を選択 → [P1] キー
2. 確認画面が表示されますので、[UP] または [DOWN] キーを押して “YES” を選択します。
履歴リセットを中止する時は “NO” を選択して [P1] キーを押します。
3. [P1] キーを押すと、履歴がリセットされます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

F35 設定リセット

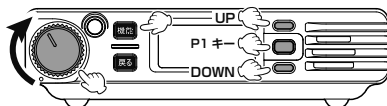
無線機のすべての設定を初期化します。

1. [機能] キー + 電源オン → [P1] キー → 「F35 設定リセット」を選択 → [P1] キー
2. 確認画面が表示されますので、[UP] または [DOWN] キーを押して “YES” を選択します。
設定リセットを中止する時は “NO” を選択して [P1] キーを押します。
3. [P1] キーを押すと、無線機の設定が初期化されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

コールメニュー

無線機の通信に関する設定を変更します。

1. [機能] キーを押しながら電源を入れます。



2. [UP] または [DOWN] キーを押して“コールメニュー”を選択して、[P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して設定するメニュー項目を選択して、[P1] キーを押します。



4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

項目	設定値（初期値：太字）	機能
C01 通信方式 (D)	UC 通信 / 個別通信	通信方式の選択
C02 UC 設定	共通 / CH 毎	ユーザーコードの使用チャンネルの設定
C03 UC (D)	000 ~ 511	ユーザーコードの選択
C04 自局 ID (D)	個別 001 ~ 個別 200	個別通信時の自局 ID 設定
C05 グループ ID (D)	グループ 01 ~ グループ 30	個別通信時の自グループ ID 設定
C06 UC ベル	回数： 0 回 / 1 回 / 2 回 / 3 回 音タイプ： A ~ M	同一 UC（ユーザーコード）からの呼び出しを知らせるベル音の鳴る回数とベル音の種類
C07 個別ベル	回数： 0 回 / 1 回 / 2 回 / 3 回 音タイプ： A ~ M	個別呼び出しを知らせるベル音の鳴る回数とベル音の種類
C08 グループベル	回数： 0 回 / 1 回 / 2 回 / 3 回 音タイプ： A ~ M	グループ呼び出しを知らせるベル音の鳴る回数とベル音の種類
C09 宛先設定	通話前 / 通話中 / 固定	個別通信で応答待ち時間（通話タイマー）が経過して、待機状態に戻る際の、呼び出し先表示の条件設定
C10 固定宛先 (D)	個別 001 ~ 200 グループ 01 ~ 030 一斉	個別通信の待受画面に表示させる、相手局の ID またはグループ ID を設定します。
C11 通話タイマー	5 秒 / 10 秒 / 15 秒 / 30 秒 / 60 秒 / CONT（連続）	個別通信時の通話保持時間の設定
C12 秘話設定	共通 / CH 毎	秘話コードの使用チャンネルの設定
C13 コールモード	OFF / ON / CH 毎	コール機能の動作チャンネルの設定

C01 通信方式 (D)

通信方式を“UC 通信”または“個別通信”に切り換えることができます。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー ➡ 「C01 通信方式」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して通信方式を選択します。

UC 通信 (初期値)	UC (ユーザーコード) 通信方式になります。
個別通信	個別通信方式になります。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

C02 UC 設定

ユーザーコードをチャンネル毎に設定するか、全てのチャンネルで共通にするかを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C02 UC 設定」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してユーザーコードの使用条件を選びます。

共通 (初期値)	全てのチャンネルで共通のユーザーコードを使用します。
CH 毎	チャンネルごとに異なる UC コードを使用します。

3. [P1] キーを押すと、設定が保存されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

C03 UC (D)

ユーザーコードを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C03 UC(D)」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して希望の数字を選びます。
3. [P1] キーを押します。
4. 手順2と3を繰り返して3桁のユーザーコードを入力します。
000 (初期値) ~ 511 のユーザーコードを設定できます。
5. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

C04 自局 ID (D)

個別通信で使用する自局の ID を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C04 自局 ID (D)」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、希望の自局 ID を選択します。
個別 001 ~ 個別 200 から選択できます。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

C05 グループ ID (D)

個別通信のグループ呼出に使用する自グループの ID を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C05 グループ ID (D)」 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、希望のグループ ID を選択します。
グループ 01 ～グループ 30 から選択できます。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

C06 UC ベル

UC 通信で運用中に、UC（ユーザーコード）が同じ相手局から、呼び出しを受けた時にビープ音を鳴らすことができます。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C06 UC ベル」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してビープ音が鳴る回数を選び、[P1] キーを押します。
0 回（初期値） / 1 回 / 2 回 / 3 回から選択できます。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して、ビープ音のタイプ“A”～“M”を選び、[P1] キーを押します。
A（初期値）～M までの 13 種類の中から選択できます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

C07 個別ベル

個別通信で運用中に、個別呼び出しを受けた時にビープ音（1 ～ 3 回）を鳴らすことができます。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C07 個別ベル」を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してビープ音が鳴る回数を選び、[P1] キーを押します。
0 回 / 1 回（初期値） / 2 回 / 3 回から選択できます。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して、ビープ音のタイプ“A”～“M”を選び、[P1] キーを押します。
A ～ M（初期値）までの 13 種類の中から選択できます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

C08 グループベル

個別通信で運用中に、グループ ID が同じ相手局から呼び出しを受けた時にビープ音(1～3 回) を鳴らすことができます。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」 を選択 → [P1] キー → 「C08 グループベル」 を選択 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押してビープ音が鳴る回数を選び、[P1] キーを押します。
0 回 (初期値) / 1 回 / 2 回 / 3 回から選択できます。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して、ビープ音のタイプ “A” ～ “M” を選び、[P1] キーを押します。
A (初期値) ～ M までの 13 種類の中から選択できます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

C09 宛先設定

個別通信で応答待ち時間 (通話タイマー) が経過して待受状態に戻る際の、呼び出し先表示の条件を設定することができます。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」 を選択 → [P1] キー → 「C09 宛先設定」 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、希望の表示方法を選択します。

通話前 (初期値)	通話を行う前に設定した呼び出し先の ID を表示します。
通話中	通話していた相手局の ID を表示します。
固定	あらかじめ「固定宛先 (D)」で設定した呼び出し先の ID を表示します。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

C10 固定宛先 (D)

「C09 宛先設定」を “固定” に設定した際に表示させる宛先 ID を設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」 を選択 → [P1] キー → 「C10 固定宛先 (D)」 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、表示させる個別 ID またはグループ ID を選択します。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数 (チャンネル) 表示に戻ります。

C11 通話タイマー

応答待ち時間（通話タイマー）を設定することができます。通話タイマーとは、相手が応答するまでの待ち時間で、呼び出した側または呼び出しを受けた側両方でタイマーが動作します。タイマー動作中は LED インジケーターが水色に点灯します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C11 通話タイマー」 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、希望の応答待ち時間を選択します。
5 秒（初期値）、10 秒、15 秒、30 秒、60 秒、CONT（連続）から選択できます。
3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

C12 秘話設定

秘話コードをチャンネル毎に設定するか、全てのチャンネルで共通にするかを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C12 秘話設定」 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、秘話コードの使用条件を選択します。

共通（初期値）	全てのチャンネルで共通の秘話コードを使用します。
CH 毎	チャンネルごとに異なる秘話コードを使用します。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

C13 コールモード

コール機能の動作の ON/OFF をチャンネル毎に設定するか、全てのチャンネルで動作するかを設定します。

1. [機能] キー + 電源オン → 「コールメニュー」を選択 → [P1] キー → 「C13 コールモード」 → [P1] キー
2. [UP] または [DOWN] キーを押して、コール機能の使用条件を選択します。

ON	全てのチャンネルでコール機能が動作します。
CH 毎	動作を ON にしたチャンネルのみでコール機能が動作します。
OFF（初期値）	コール機能は動作しません。

3. [P1] キーを押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切って再び電源を入れると周波数（チャンネル）表示に戻ります。

故障かな?と思う前に

間違った操作をしていませんか? 修理を依頼される前にお確かめください。

◎ 電源が入らない!

- ・ DC 電源または、DC 電源コードのヒューズが切れていませんか?
- ・ お車のバッテリーの電圧は正常ですか?
- ・ 直流安定化電源が「オフ」になっていませんか?

◎ キー操作ができない!

- ・ ディスプレイに“”が表示されていませんか?
➡ 戻るキーを長押しして、キーロックを解除してください。

◎ 送信できない!

- ・ **PTT** スイッチを正しく押していますか?
- ・ **PTT** スイッチが「ロック」されていませんか?
➡ 戻るキーを長押しして、キーロックを解除してください。
- ・ 送信出力制限の設定が「受信専用」になっていませんか?

◎ 音がでない!

- ・ 消音 (ミュート) 機能が「オン」になっていませんか?
➡ マイクロホンの消音キーを押して、消音 (ミュート) 機能を「オフ」にしてください。

◎ 通話できない!

- ・ 相手局と同じ周波数 (チャンネル) に設定していますか?
- ・ 相手局との距離が離れすぎていませんか?
- ・ 相手局と同じ通信方式に設定していますか?
➡ 同じ通信方式 (UC 通信または個別通信) に設定してください。
➡ 本機はデジタル通信方式の無線機です。アナログによる通話はできません。
- ・ 相手局と同じ UC (ユーザーコード) に設定していますか?
➡ 通信方式が UC 通信または個別通信、いずれの場合も相手局と同じ UC (ユーザーコード) に設定してください。
- ・ 個別通信の場合、宛先 ID / グループ ID がありますか?
- ・ 秘話通信機能が動作していませんか?
➡ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、秘話通信による通話をすることはできません。

定格

送受信周波数：	デジタル簡易無線登録局 (6.25kHz 間隔、82 波)		
	351.03125MHz ~ 351.10000MHz、		
	351.20000MHz ~ 351.63125MHz		
	上空用チャンネル (6.25kHz 間隔、15 波)		
	351.10625MHz ~ 351.19375MHz (モニターのみ可)		
電波型式：	F1C/F1D/F1E/F1F		
変調方式：	4 値 FSK		
通信方式：	単信ブレストーク式		
送信出力：	5W/2.5W/1W (+20%、- 50% 以内)		
消費電流：	DC13.8V		
	送信時	約 1.6A (出力 5 W時)	
	受信定格出力時	約 600mA (本体スピーカーまたはマイクスピーカー)	
	受信待受時	約 220mA (GPS OFF)	
受信感度：	- 3dB μ V emf 以下 (BER=1%)		
低周波出力：	本体 / マイクスピーカー 2W 以上 (10% 歪時)		
	外部スピーカー 4W 以上 (10% 歪時)		
温度範囲：	- 20℃ ~ +60℃		
定格電圧：	DC13.8V $\pm$ 10% または DC26.4V $\pm$ 10%		
本体寸法：	約 120mm $\times$ 約 30mm $\times$ 約 120mm (幅 $\times$ 高さ $\times$ 奥行き) (突起物を含まず)		
重量：	本体 約 570g、マイク 約 200g		

Bluetooth のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、八重洲無線株式会社はライセンスに基づいて使用しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

索引

A	
ARTS 機能	36
B	
Bluetooth 機能	45
Bluetooth の設定	6
Bluetooth ヘッドセットで ハンズフリー運用をする	15
C	
CUE (キュー) 機能	14
CUE スピーカー	63
D	
DC 電源コード	23
DOWN キー	20
G	
GPS 端子	23
GPS モード	59
L	
LED インジケータ	19, 22
M	
MIC 端子	23
P	
P1 キー	20
P1 キーに設定できる機能	10
P1 キーの機能を変更する	9
P2 キー	22
P2 キーに設定できる機能	10
P2 キーの機能を変更する	9
PA (拡声器) 機能	17
PTT (通話) スイッチ	22
PTT ホールド機能	36
R	
RX イコライザー機能	63
RX ビープ	57
T	
TX イコライザー機能	63
TX ビープ	56
U	
UC 設定	66
UC (ユーザーコード) 通信	26
UC (ユーザーコード) 通信の設定方法	27
UC ベル機能	37
UP キー	20
USB 端子	23
V	
VOX	34
VOX 送信保持時間	61
あ	
アクセサリ端子 (ACC)	23
宛先 ID	48
宛先設定	68
アンサーバック	49, 58
安全上のご注意	5

アンテナコネクター	23
アンテナの接続	24
い	
イグニッション端子	23
一斉呼出	28
一斉呼び出しを受けたとき	32
お	
オプション	1
主なキーの説明	8
音声自動送信 (VOX) 機能	34
音量ツマミ	19
か	
外部スピーカー端子	23
外部マイク感度	55
拡声器機能	17
拡張機能	52
各部の名前と機能	19
簡易設定	38
き	
キーロック機能	25
機能キー	19
基本的な使いかた	8
キュー機能	14
緊急モード	56
く	
クイックアンサー機能	42
グループ ID	67
グループ親機に設定した場合の グループ呼び出し設定	31
グループ子機に設定した場合の 自グループの設定	30
グループ着信割り込み設定について	31
グループベル	37, 68
グループ呼出	28
グループ呼び出しを受けたとき	32
こ	
高温時の保護機能	33
構成品	1
購入後に初めて電源を入れた時	6
コールチャンネル	4
コール動作	50
コールメニュー	65
コールモード	69
故障かな?と思う前に	70
固定宛先	68
個別通信	28
個別通信の簡易設定	48
個別通信の準備	29
個別通信の呼び出し方法の設定	30
個別ベル	37, 67
個別呼出	28
個別呼び出しを受けたとき	32
コントラスト	54

さ	
再生	42
し	
自局 ID	66
自局情報	47
弱電界アラーム	57
車載用ブラケットの使いかた	24
受信時自動録音機能	42
準備	24
消音キー	22
消音機能	35
上空チャンネル	62
す	
スピーカー	20
せ	
セカンダリ PTT 機能	35, 38
2nd PTT 固定 CH	44
セカンダリー PTT スイッチ	22
設定のリセットについて	26
設定リセット	64
セットメニュー	53
セミ VOX 機能	35
全員を一斉に呼び出す	31
そ	
送信出力	44
送信出力制限	57
た	
正しくご使用いただくために	3
ち	
着信履歴	49
CH 空き通知	60
CH ガイダンス	59
チャンネル構成	4
つ	
通信時に動作する機能について	33
通信方式	66
通信方式に関して	4
通信方式について	25
通話タイマー	69
通話中の「ビビビ」音（連続送信時間制限）	33
て	
定格	71
ディマー	54
デジタル簡易無線局について	4
電源	19
電源の接続	24
電波干渉について	3
と	
特定の相手を呼び出す	30
特定のグループに属する全員を呼び出す	30
は	
発信履歴	49
ハンドマイク感度	56
ひ	
ヒートプロテクション（高温時の保護機能）	33

ビーブレベル	55
秘話機能	41
秘話設定	69
ふ	
不在着信ベル	58
フルドットディスプレイ	21
フロントパネル	19
へ	
便利な機能を使う	12, 34
ほ	
防塵・防水性能について	3
ま	
マイク	22
マイクロホン	22
待受受信	43
待受受信 PTT	62
待受受信 RX	62
待受受信指定 CH 1	44
待受受信指定 CH 2	44
待受受信タイプ	61
待受受信 CH	43
マルチチャンネル待受機能	12
み	
ミュート（消音）機能	35
む	
無線機情報	47
め	
メイン画面	44
メッセージ確認	50
メッセージ送信	49
も	
戻るキー	19
ゆ	
ユーザーコード	40
ユーザーコード通信	26
ユーザーコード通信の設定方法	27
よ	
呼び出しを受けたとき	32
ら	
ライト禁止	41
り	
リアパネル	23
リモート PA	40
リモート PA（拡声器）機能	18
リモート PA 受信	41
リモート制御	50
履歴リセット	64
れ	
連続送信時間制限	33
ろ	
録音メモ	42
わ	
ワンタッチ VOL	60

STANDARD HORIZON

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。
詳しくは下記の URL をご覧ください。

八重洲無線株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-3 大森ベルポートD-3F

電話：03-6404-6525

URL： <https://connect.yaesu.com>



E N O O 6 U O 5 1

2309G-BC-1
Printed in China